



2006 FISITA Formula SAE World Cup

FISITA FormulaSAE
2006 World Cup



第4回 Student Formula SAE Competition of JAPAN

全日本 学生フォーミュラ大会

ものづくり・デザインコンペティション

"Monodukuri"・Design Competition

～学生が自ら構想・設計・製作した車両による競技会～

主催
Organizer

社団法人自動車技術会



Society of Automotive Engineers of Japan, Inc.(JSAE)

共催
Co-Organizer

FISITA(国際自動車技術会連盟)

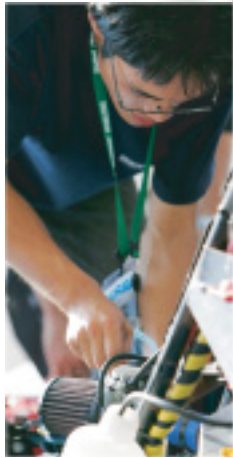
International Federation of Automotive Engineering Societies

9/13^水～16^土

ECOPA
小笠山総合運動公園
OGASAYAMA SPORTS PARK

Official Program

後援 | 文部科学省, 経済産業省, 国土交通省, 静岡県, 日本自動車工業会, NHK, 日本テレビ放送網, 東京放送, フジテレビジョン, テレビ朝日, 静岡放送, 静岡朝日テレビ, 朝日新聞社, 読売新聞東京本社, 毎日新聞社, 日本経済新聞社, 日刊工業新聞社, フジサンケイビジネスアイ, 日刊自動車新聞社, 静岡新聞



ご祝辞	2
Congratulatory Message	
FISITA会長あいさつ	3
Congratulatory Message	
ごあいさつ	4
Introduction	
大会のコンセプト	36
Concept	
競技スケジュール	37
Schedule of Competitive Events in 2006	
競技概要	38
Outline of Competition	
大会ルールの概要	39
Outline of Rules Governing Competitive Events	
表彰	40
Awards	
参加チーム【車両スペック】	41~50
Participating Teams(Vehicle Specifications)	
チームメンバーとスポンサー	51~60
Team Members and Sponsors	
主催・共催・後援・協賛・大会スタッフ	61
Organisers/Co-Organisers/Sponsors/Co-Sponsors/Competition Staff	
委員会組織	62
Committee Member	
Formula SAE [®] とは	63
About Formula SAE [®] -Competition Overview	
大会開催の経緯	64
History of Competition	
第3回大会参戦記	65
3rd Competition Report	
第1回、第2回大会ドキュメント	66
1st & 2nd Competition Results	
第3回大会ドキュメント	67~68
3rd Competition Results	
大会グラビア	70
Competition of Photos	



第4回 全日本 学生フォーミュラ大会開催を祝して

Congratulatory Message for The 4th Student Formula SAE Competiton of Japan



文部科学大臣
小坂 憲次

第4回全日本学生フォーミュラ大会の開催を、心からお慶び申し上げます。

本大会は、学生にもものづくりの機会を提供することにより、大学・高専等の工学教育活性化に寄与するものであり、将来のものづくりを担う人材を育成するという観点から、極めて意義深いものであると考えております。

今回、海外からの参加を含め54ものチームが本大会に参加するとのことですが、第1回の17チームに比べ実に3倍以上ものチームが参加する大会に育ったということは、本大会が、社会的に認知されてきたことの表れであると思えます。

本大会の目的の一つは、ものづくりの本質やそのプロセスを学ぶことを通じて、ものづくりの厳しき・おもしろさ・喜びを体感することにあります。この目的のもと、学生諸君が車の企画から製作までをすべて自らの手で行うことは、高度な専門性を持った技術者になるために必要な工学の基礎から実践までの能力を養い、更に、コスト意識やマネジメント能力を身につける得難い経験となると考えております。

学生諸君が、本大会を契機に研鑽を積まれ、将来の我が国の産業界を支える技術者として御活躍されることを祈念しております。

本大会に出場された各チームの皆様、指導教員や学校関係者の皆様の御健闘をお祈りするとともに、社団法人自動車技術会をはじめ、本大会の企画・運営を支えられた皆様の御尽力に敬意を表して、お祝いの言葉いたします。

第5回 全日本 学生フォーミュラ大会開催

2007年9月上旬の4日間を予定しています。

皆さんの参加を歓迎します。

FISITA 会長挨拶

FISITA President's Message for FISITA Formula SAE World Cup

Welcome to the programme for Formula SAE Japan 2006 - the first Formula SAE competition to host the prestigious new FISITA Formula SAE World Cup.

Formula SAE began in 1981 when the first event was organised in the United States by SAE International, FISITA's largest member society. It soon grew in size and popularity, attracting teams from all the world to travel to the US to compete. SAE's initiative served as the inspiration for a series of similar Formula SAE competitions, based on the same rules and organised by fellow FISITA member societies.

In 1998, a modest trial event was organised in the UK, which also grew quickly to become a major international event. Competitions in Australia, Japan and Brazil soon followed. More recently, Formula SAE events have been started by FISITA societies in Germany and Italy. Today Formula SAE is arguably the most successful student engineering competition in the world. It succeeds where other, theory-based competitions fail because it captures the imagination of students, teachers and industry people alike.

The excitement of motor sport certainly helps to give Formula SAE its unique appeal, but these competitions are about much more than racing. They are about giving tomorrow's engineers a taste of the challenges they will face in the world of industry. Many of these challenges are technical, and of an engineering nature - but they are also about leadership, teamwork and communication. They call for an understanding of other disciplines such as finance, project management and marketing; and they call for the ability to see the bigger picture of a vehicle project, as well as the detail.

In other words, Formula SAE matters because it teaches skills that simply cannot be learned in the lecture theatre or the laboratory. The results speak for themselves. The quality of design and fabrication evident in many of the competition cars is breathtaking in its professionalism. More impressive still is the talent, organisation and enthusiasm displayed by the teams themselves.

There is an international quality to Formula SAE, which is another great strength of the series. Students from different nations and cultures are able to interact, build contacts and learn from one another. This too is priceless experience which will serve them well in today's global auto industry.

Indeed during 2006, students from more than 230 universities and colleges around the world will take part in FSAE events. As the world federation of automotive engineering societies, FISITA wants to encourage this international dimension as far as possible. That's why we have made sponsorship available to the top-placed teams from each of the FSAE / Formula Student competitions in the US, UK, Japan and Australia - so that they can bring their cars to Japan and compete for the FISITA Formula SAE World Cup, together with prize money of EUR 1,000.

This competition will showcase the achievements of some of the world's very best student engineers, as well as providing an exciting and enjoyable experience for everyone who takes part. I would like to thank the members and staff of all the societies involved in Formula SAE, and especially to the Society of Automotive Engineers of Japan for being the first to host this exciting new trophy.

I wish all the teams competing for the FISITA Formula SAE World Cup the best of luck.



Daniel M. Hancock
FISITA President

A handwritten signature in dark ink, appearing to read 'D Hancock', written in a cursive style.

FISITA FormulaSAE
2006 World Cup

第4回 全日本 学生フォーミュラ大会を迎えて

Welcome to 4th Student Formula SAE Competition of Japan



社団法人 自動車技術会
会長 大久保 宣夫

大久保宣夫

今年で4回目を迎える全日本学生フォーミュラ大会は、海外からの3チームも含めて51チームがエントリーしています。また、今大会はFISITA(国際自動車技術会連盟)主催の第1回FISITA Formula SAE World Cupも兼ねており、米国、イギリス、オーストラリアの各大会で、優勝もしくはそれに準ずる成績を収めたチームが招待されています。招待チームをあわせ、全54チームで3日間の大会を競い合うことになります。

学生フォーミュラ大会は、クルマの加速、ハンドリング、耐久性といった走行性能に加え、車両コンセプト、設計、製造、コスト、更にはプレゼンテーションスキルも審査の対象となっています。つまり、「モノづくりの総合力」を競うことが大会の目的です。

コストや日程、構造基準など数々の条件を満足しつつ、クルマの商品性や性能の向上を図り、且つ設計どおりに製造することは、まさに実際の自動車業界でも行われていることですが、学生の皆さんは短い期間にこのプロセスを一通り経験することができます。

実行にあたっては多くの障壁に直面するでしょう。しかし、その都度、「何が問題かを見極める努力」と、「問題を解決するための創意工夫」を厭わず、「チームメンバー間の連携」を大切にすれば、きっと打開できると思います。

本大会をとおして、学生の皆さんは、モノづくりや共同作業の難しさ、楽しさ、苦しみ、喜びを味わうと思います。また、実際にモノを見て触れることがモノづくりにとっていかに重要であるかを実感できると思います。このような「思い」や「実感」は是非大切にしたいと思えます。将来皆さんが社会に出たときに必ず役に立つものと私は信じております。

前述のとおり、今大会は海外から優秀なチームを招待しておりますが、自動車技術会としては、学生の皆さんに、より高いレベルでのモノづくりの場を提供していくことを目標にしております。今後も国内外ともに学生フォーミュラ大会が発展していくよう、参加チームの皆さんやOBの方々のご協力もいただきながら努力していきたいと考えております。

最後になりますが、参加チームの皆さんのご検討をお祈りするとともに、参加校の関係者の皆様、本大会のスポンサー様、ボランティアの皆様、そして大会の企画運営関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

競技会のコンセプト | Concept of Competition based on Formula SAE®

全日本学生フォーミュラ大会は、学生たちが企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで競技を行います。この大会は、米国で1981年から毎年開催されている Formula SAE® (SAE International 主催) にならって開催するものです。

大学、短大、高専等の学生がチームを組み約1年かけて製作した車両を持ち寄り、コスト、プレゼンテーション、設計の静的イベント、車検、アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、エンデュランスの動的イベントを4日間にわたって行い、車両性能だけでなくものづくりの総合力を競います。そして、優秀なチームを表彰します。

学生たちは、アマチュア週末レーサーに販売することを仮定して車両を製作します。したがって、加速性能、ブレーキ性能、操作性、耐久性能が優れているだけでなく、美しさ、快適さ、低コスト、メンテナンス性を高めることも要求されます。また、一日あたり4台の生産計画のもとに、その車両の実質コストはUSD25,000以下としています。さらに、車両製作にあたっての車体フレームとエンジンに関する制約は必要最小限にすることによって、学生の知識や独創性や構想力が発揮できるように配慮しています。

これらの狙いと目標に適合した車両を設計・製作するために学生チームは挑戦します。学生たちは、車づくりを通して実践的な問題解決力や応用力、旺盛な行動力やマネジメント能力など教室では培うことが難しい貴重な経験を積むこととなります。

大会運営の基本方針 | General Policy on Operation Competition

大会運営の最優先事項は、事故のない安全な大会です。そのためには、大会スタッフとチームメンバーとの意思疎通を良くすること。規律のある言動を重視します。

4回目を迎える今年の大会は、初めて海外チームの参加制限のないオープンな大会となります。さらに、海外チームをサポートする国内ホスト校を募集し、チーム間の交流を促進します。

2006 FISITA Formula SAE World Cup

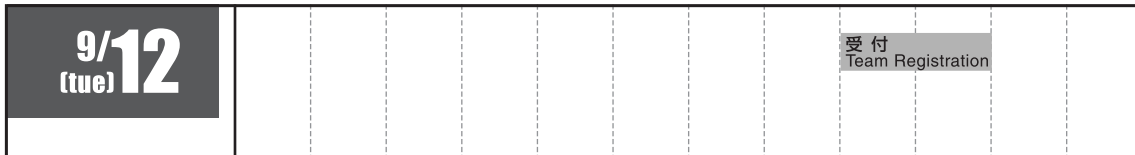
世界各国の自動車技術会が加盟するFISITAが主催して、日本(全日本学生フォーミュラ大会)、アメリカ(Formula SAE®)、イギリス(Formula Student)、オーストラリア(Formula SAE® Australasia)の優勝チームが一同に集まりワールドチャンピオンを決める大会です。今年の第4回 全日本学生フォーミュラ大会において栄えある第1回ワールドカップを併催することが決まりました。

大会スポンサー			
<p>【SSクラス】 トヨタ自動車</p> <p>【Sクラス】 日産自動車 本田技研工業</p> <p>【Aクラス】 マツダ ヤマハ発動機 スズキ 富士重工業 いすゞ自動車 VSN NTN 川崎重工業 ZF Japan ソフトウェアクレイドル ダイハツ工業 ミスミグループ本社 三菱自動車工業</p> <p>【Bクラス】 デンソー 日野自動車 サイバネットシステム ソリッドワークス・ジャパン アイシン精機</p>	<p>アルテアエンジニアリング エフ・シー・シー エムエスシーソフトウェア KYB シーメンスVDOオートモーティブ 大同特殊鋼 日産ディーゼル工業 日立製作所 ボッシュ ミクニ 三菱ふそうトラック・バス</p> <p>【Cクラス】 愛知機械工業 カルソニックカンセイ ケーヒン 豊田自動織機 トヨタ車体 ユタカ技研 愛三工業 アイシン・エイ・ダブリュ アイシン高丘 アドヴィックス 内山工業 小野測器 関東自動車工業 三五</p>	<p>ジヤトコ ジェイテクト ショーワ 住鋤潤滑剤 住友軽金属工業 住友電装 住友ゴム工業 大成社 大同メタル工業 ダイナテック ダッド 中央発條 テイ・エス テック dSPACE Japan 東京アールアンドデー 東京濾器 東日製作所 東洋ゴム トヨタテクニカルディベロップメント トヨタ紡織 豊田合成 日産車体 日信工業 日本特殊陶業 日本発条 フジオーゼックス</p>	<p>ブリヂストン プレス工業 ムラヤマ 山田製作所 ユニキャット 横浜ゴム</p> <p>【Dクラス】 愛知製鋼 旭硝子 アスモ ジェイアイ傷害火災保険 タイコ エレクトロニクスアンプ 大豊工業 TNO-Automotive ジャパン デンソーテクノ 東レ 日産テクノ 日本ガスケッ 日本ミシュランタイヤ パイオラックス バンドー化学 松井製作所 ミツバ 三菱自動車エンジニアリング 三ツ星ベルト</p>

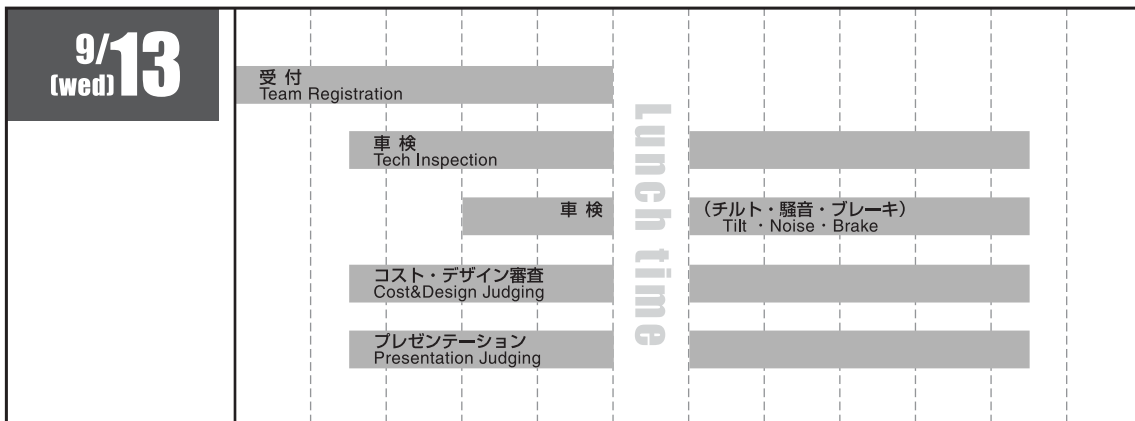
競技スケジュール (競技場所は裏表紙の会場マップ参照)

Schedule of Competitive Events in 2006

7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00

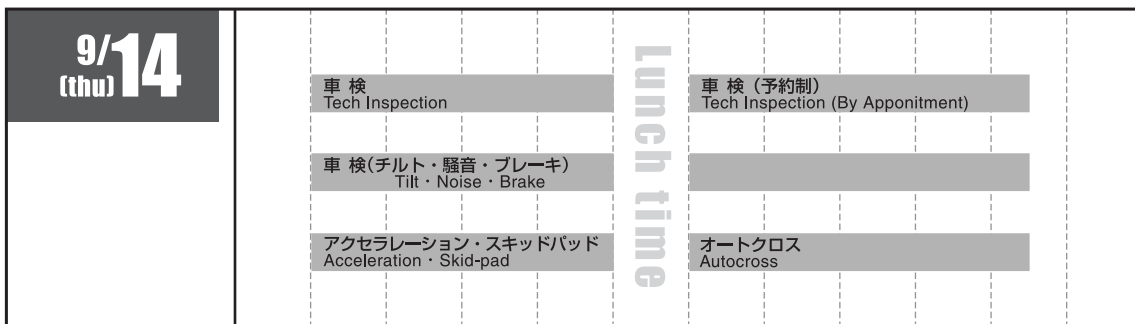


7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00



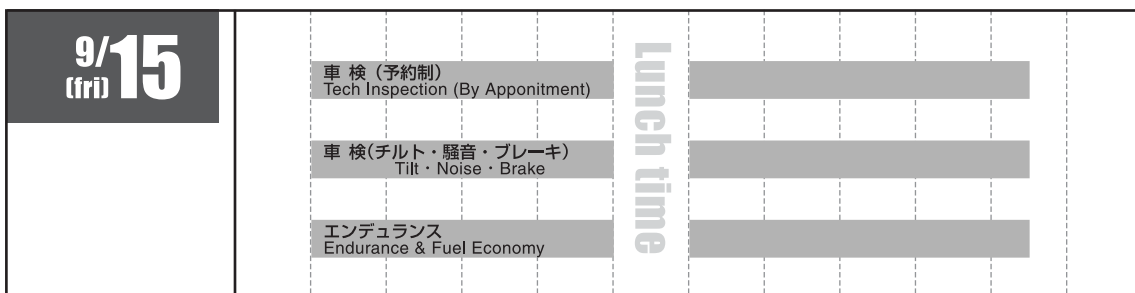
- プラクティス Practice
【 10:30-17:30 】
- コミュニケーションセンター
Communication Center
【 7:00-17:30 】
- 燃料給油所 Fuel Station
【 9:00-17:30 】
- 修理工房 Repair Site
【 10:00-17:30 】
- キャプテンミーティングと
ドライバーズミーティングに
ついては、別途案内。

7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00



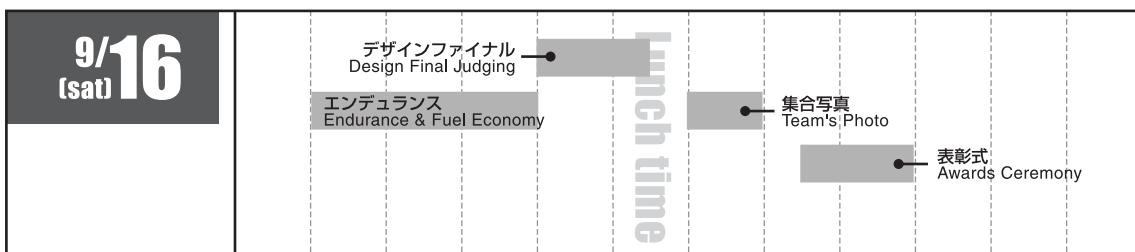
- プラクティス Practice
【 7:30-17:30 】
- コミュニケーションセンター
Communication Center
【 7:30-17:30 】
- 燃料給油所 Fuel Station
【 7:30-17:30 】
- 修理工房 Repair Site
【 8:30-17:30 】

7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00



- プラクティス Practice
【 7:30-17:30 】
- コミュニケーションセンター
Communication Center
【 7:30-17:30 】
- 燃料給油所 Fuel Station
【 7:30-17:30 】
- 修理工房 Repair Site
【 8:30-17:30 】

7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00



- プラクティス Practice
【 7:30-11:00 】
- コミュニケーションセンター
Communication Center
【 7:30-17:30 】
- 燃料給油所 Fuel Station
【 7:30-11:00 】

競技概要

Outline of Competition

競技種目 Competition category		競技概要 Outline of competition	配点 Awarded points
車検 Tech inspection		車両の安全・設計要件の適合、ブレーキ試験(4輪ロック)、騒音試験(所定の条件で排気音110dB以下)、チルトテーブル試験(車両45度傾斜で燃料漏れ無し。ドライバー乗車し車両60度傾斜で転覆しない)	—
静的競技 Static competitions	コスト Cost	予算とコストは、生産活動を行うにあたって考慮しなければならない重要な要素であることを参加者に学ばせることが狙い。車両の製造コストは325万円以下。車両を見ながら事前に提出したコストレポートのコスト精度、チームによる製造度合等を確認し、レポートのコストと車両との適合を審査する。一般に購入品目となる2つの部品について、製造プロセスなどの口頭試問を行い、それらの知識・理解度を評価する。	100
	プレゼンテーション Presentation	開発車両の設計が「アマチュアの週末レース市場の要求に合致しており、製造販売で利益を出せることを製造メーカーの役員に納得させる」という仮想シチュエーションで行う。学生のプレゼンテーション能力を評価することが狙い。	75
	設計 Design	事前に提出した設計資料と車両をもとに、どのような技術を採用し、どのような工夫をしているか、またその採用した技術が市場性のある妥当なものかを評価する。具体的には、車体および構成部品の設計の適切さ、革新性、加工性、補修性、組立性などについて口頭試問する。	150
動的競技 Dynamic competitions	アクセラレーション Acceleration	0-75m加速。各チーム2名のドライバーがそれぞれ2回、計4回走行し、タイムを競う。	75
	スキッドパッド Skidpad	8の字コースによるコーナリング性能評価。各チーム2名のドライバーがそれぞれ2回、計4回走行し、タイムを競う。	50
	※ オートクロス Autocross	直線・ターン・スラロームなどによる約900mのコースを1周走行する。各チーム2名のドライバーがそれぞれ2回、計4回走行し、タイムを競う。エンデュランスは、このオートクロスの早いチーム順に走行する。	150
	※ エンデュランス Endurance	直線・ターン・スラロームを組み合わせた約900mの周回路を、チーム2名のドライバーが11周づつ走行し、合計22週のタイムを競う。	350
	燃費 Fuel economy	エンデュランス走行時の燃料消費で評価する。	50
合計 Total points			1000

※コースの長さは変更になる可能性があります。

The course length may be changed.

表彰スポンサー・他

イータス	共和電業	住友ゴム工業	静岡県
日本自動車工業会	サイバネットシステム	住友スリーエム	エコパ(小笠山総合運動公園)
堀場製作所	ソリッドワークス・ジャパン	東洋ゴム工業	トヨタ自動車東富士研究所
小野測器	FISITA	ブリヂストン	日本大学
エイヴィエルジャパン	VSN	プレス工業	静岡大学
日本SGI	エムエスシーソフトウェア	横浜ゴム	静岡理科大学
アサヒ飲料	新日本石油	自動車技術会	

大会ルールの概要

Outline of Rules Governing Competitive Events

参加車両は、学生が構想・設計・製作したもので、2006FSAE[®]の規定を満たすこと。過去の大会に参加した車両のフレームは使用できない。車両の構成部品についても、安易に市販品等を用いるのではなく、できる限り学生自ら製作することをモットーとする。また、プロの技術者・研究者の情報を利用すること、設計の基礎・安全に車両を製作するための方法に関する指導・支援を受けることは許容するが、設計仕様を決定したり設計図を書いてもらうことは許容しない。

安全面については厳格で緻密なルールにしているが、学生たちの知識、独創性、構想力が大いに発揮できるように、安全要件を除いた設計上の制約は必要最小限にしている。

参加資格は、大学院、大学、短大、高専、又は短大相当の専門学校の18歳以上の学生が対象。なお、競技会の7カ月前までに卒業した者は参加資格を有する。

【主な設計要件】 Design Requirements

- ①タイヤがカウルで覆われてなく、コクピットがオープンなフォーミュラスタイルの車両であること。
- ②4サイクルピストンエンジンで排気量610cc以下。オリジナル設計の過給機の装着は可。
リストラクター（吸気制限装置）の最大直径は20mm。使用燃料は100RON（リサーチ法オクタン価）の無鉛ガソリンとする。
- ③ホイールベース1525mm以上。トレッドは、フロント又はリアの大きい方に対して75%以上。ホイールは8インチ以上。
- ④排気音量は、排気口から水平面45度、50cmの位置で110dB以下（所定の回転数）。

【主な安全要件】 Safety Requirements

- ①横転・正面衝突・側面衝突時にドライバーを保護するために、メインフープ、フロントフープ、フロントバルクヘッドおよびこれらのブレースやサポート、側面衝突保護構造体などについて構造・材料などの詳細を規定。
- ②車両前端からメインフープ又は防火壁の間のドライバー区画に開口部がないこと（コクピット開放部に関して定めることは除く）。
- ③衝突エネルギーを吸収する装置として、フロントバルクヘッドの前にインパクトアッテネータを取り付けることを規定。
- ④ドライバー安全規則として、拘束システム（5又は6点式シートベルト）、保護用具（ヘルメット、スーツ、手袋、シューズなど）、視界、ヘッドレスト、ドライバー脱出時間（5秒以内）、横転限界角度、防火壁、消火器、ドライバーの脚・足の保護等について詳細を規定。
- ⑤ブレーキは4輪すべてに作動し、独立した2系統の液圧回路を有すること。ブレーキの踏みぬけのような事態が発生した時にそれを検知しエンジンを停止させるオーバートラベルスイッチを装備。

【主な競技要件】 Competition Requirements

- ①静的競技のうちコストと設計については、所定のコストレポートと設計レポートを大会の約2カ月前提出を義務づけ。未提出の場合は、コスト審査は-100ポイント、設計審査は0ポイントとなる。
- ②車検に合格し、車検ステッカーが貼られた車両でなければ、プラクティス走行および動的イベントに参加できない。
- ③動的競技は、一人のドライバーが二つまでの競技を運転することができる。エンデュランスと共に燃費も評価するが、これは一つの競技としてカウントする。一つの競技で4回試技する際は、二人のドライバーが2回ずつ試技する。



FISITA Formula SAE World Cup

総合優勝：1000 ユーロ 準優勝：500 ユーロ 3位：トロフィー

特典

本大会に出場した一般エントリー(*1)の最上位成績チームは、来年開催予定の2007 FISITA Formula SAE World Cup(*2)への出場権を獲得します。

(*1)本大会に出場したFISITA招待チームは対象外

(*2)2007 Formula Student(2007年7月上旬、イギリス)で併催予定

経済産業大臣賞 (総合優勝)

Minister of Economy, Trade and Industry Award

静岡県知事賞

Governor of Shizuoka Prefecture Award

静的審査、加速性能、スキッドパッド、オートクロス、騒音、燃費、安全、軽量化努力の評点をもとに総合得点

総合優秀賞 Spirit of Excellence Award 【提供:イータス】

全競技総合得点1~6位 (1位:20 2位:15 3位:10 4位:7 5位:5 6位:3)

静的優秀賞 Spirit of Static Event Award 【提供:小野測器】

静的競技総合得点1~6位 (1位:9 2位:7 3位:5 4位:4 5位:3 6位:2)

コスト賞 Cost Award 【提供:共和電業】

コスト・製造審査の1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

プレゼンテーション賞 Presentation Award 【提供:東洋ゴム工業】

プレゼンテーションの1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

デザイン賞 Design Award 【提供:サイバネットシステム】

設計審査の1~3位 (1位:10 2位:6 3位:4)

加速性能賞 Acceleration Award 【提供:住友ゴム工業】

加速性能の1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

スキッドパッド賞 Skid-Pad Award 【提供:横浜ゴム】

スキッドパッドの1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

オートクロス賞 Autocross Award 【提供:ブリヂストン】

オートクロスの1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

省エネ賞 Fuel Economy Award 【提供:小野測器】

燃費の1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

耐久走行賞 Endurance Award 【提供:ソリッドワークス・ジャパン】

耐久走行の1~3位 (1位:10 2位:6 3位:4)

日本自動車工業会 会長賞(環境・安全・教育特別賞) JAMA Chairmann Award 【提供:日本自動車工業会】

設計安全、衝突安全、軽量化努力、燃費、騒音、スポーツマンシップ等の評点をもとに総合得点
1~6位 (1位:20 2位:15 3位:10 4位:7 5位:5 6位:3)

ルーキー賞 Rookie Award 【提供:VSN】

国内外FSAE大会初参加チームの全競技総合得点1~3位 (1位:10 2位:6 3位:4)

CAE特別賞 CAE Award 【提供:エムエスシーソフトウェア】

CAE技術を効果的に活用している1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

ユニークデザイン特別賞 Unique Design Award 【提供:住友スリーエム】

設計において工夫・苦心している1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

安全設計特別賞 Safety Design Award 【提供:共和電業】

独自の安全設計を採用している1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

グッドフレームデザイン賞 Good Frame Design Award 【提供:プレス工業】

優れたフレーム設計の1~3位 (1位:5 2位:3 3位:2)

スポーツマンシップ賞 Sportsmanship Award 【提供:自動車技術会】

最もスポーツマンシップの評価が高いチーム (1位:5)

ベストWebサイト賞 Best Web Site Award

優れたチームWebサイトの1~3位



パステース
堀場製作所提供



スタッフTシャツ
エイヴィエルジャパン提供



スタッフTシャツ
日本SGI提供



スタッフTシャツ
バックプリント共通

協カスポンサー

- 会場：静岡県 小笠山総合運動公園
- ドリンク：アサヒ飲料
- ガソリン：新日本石油
- 重量計：ブリヂストン
- 騒音計測器：小野測器
- 燃料計測器：日本大学
- 溶接機器等：
トヨタ自動車東富士研究所
静岡大学
静岡理科大学

注)順位に記載の数値単位：万円

参加チーム【車両スペック】

Participating teams (vehicle specifications)

No	学校名 School Name	Body-Color(s)	Frame	Body-work	Suspension (Front & Rear)	Overall Length Overall Height Wheelbase Front Track Rear Track	Gross Vehicle Mass Fr:Rr Weight Dist. Ground Clearance	Wheels & Tires
1	金沢大学 Kanazawa University	blue	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2650 mm 1100 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	215 kg 48:52 40 mm	13inch RAYS TE37FJ 160/515-13 YOKOHAMA Bias
2	神奈川県工科大学 Kanagawa Institute of Technology	white & blue	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2642 mm 1168 mm 1620 mm 1220 mm 1210 mm	244 kg 48:52 50 mm	13inch RS Watanabe 160-515-13 YOKOHAMA
3	国士舘大学 Kokushikan University	black & white	Steal spaceframe	G-FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2850 mm 1020 mm 1700 mm 1200 mm 1175 mm	230 kg 48:52 50 mm	RS.Watanabe Mag EIGHT SPOKE 20.5x6.0-13 R25A Hoosier
4	芝浦工業大学 Shibaura Institute of Technolgy	black & darkblue	Steal spaceframe	Balsa & GFRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2760 mm 1136 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	225 kg 49.3:50.7 50 mm	13inch Keizer 180/510-13 BRIDGESTONE
5	東京電機大学 Tokyo Denki University	blue	Steal tube spaceframe	CFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2472 mm 1155 mm 1525 mm 1120 mm 1120 mm	188 kg 48:52 45 mm	13inch keizer rim with original dish 20.0 x 6.5-13 goodyear
6	日本大学理工学部 College of Science and Technology, Nihon University	tricolore	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2585.3 mm 1060 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	215 kg 45:55 60 mm	13 inch RAYS TE37 180/510-13 BRIDGESTONE Bias
7	東海大学 Tokai University	blue & white	Steal spaceframe	CFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2800 mm 990 mm 1700 mm 1300 mm 1300 mm	230 kg 48:52 30 mm	13inch RAYS 20.5 x 7.0 - 13 Hoosier
8	横浜国立大学 Yokohama National University	wine red	Steal spaceframe	FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2750 mm 1120 mm 1530 mm 1100 mm 1100 mm	210 kg 45:55 50 mm	10inch RSwatanabe Eight spoke 18.0/6.0-10 Hoosier Bias
9	名古屋大学 Nagoya University	pure white	Tubular spaceframe	FRP	Front & Rear : Double unequal length non parallel A-arm push rod with stabilizer	2590 mm 1070 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	220 kg 50:50 45 mm	13inch Keizer 20.5 x 6.0 - 13 Hoosier R25A
10	東京大学 The University of Tokyo	blue	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2550 mm 1035 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	260 kg 47:53 50 mm	13inch WATANABE Magnesium 20.5x6.0 -13 Hoosier
11	武蔵工業大学 Musashi Institute of Technology	blue	Steal spaceframe	GFRP	Front & Rear : Double unequal length Pull rod	2500 mm 1160 mm 1630 mm 1150 mm 1100 mm	175 kg 50:50 50 mm	10inch RS Watanabe Mag EIGHT SPOKE Hoosier ROAD RACING 18.0 x 6.0-10 R25A

車両スペックは、2006年6月に提出されたものであり、大会車両と異なるケースもあります。

Engine Displacement max. power max. torque	Induction type Fuel tank Volume	Shifter	Final Drive & Differential	Brakes	Unique Features & Notes
2005 YAMAHA YZF-R6 599cc N.A. N.A.	Naturally Aspirated 6.0L	Manual	Chain drive, Mechanical LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	Custom cam shaft
PC35EHONDA CBR600F4i 599cc 72.2ps/10000rpm 5.28kgf/9000rpm	Naturally Aspirated 6.0L	Manual	LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Brembo calipers	3 division structures , shaft drive, start-off-system
PC37EHONDA CBR600RR 599cc 80.4ps/11000rpm 60.1Nm/7500rpm	Naturally Aspirated 7.0L	6speed sequential	Chaindrive, Torsen diff	Front:2 outboard Rear:2 outboard Tokico calipers	dual injection system
PC37E HONDA CBR600RR 600cc 75ps/11500rpm 5.4kgf/7000rpm	Naturally Aspirated 5L	Manual	Chain Cusco L.S.D.	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	Brake balance adjustment system Light balsa body
PE06E HONDA CRF450X 498cc 65ps/8000rpm 5.6kgf/4500rpm	Naturally Aspirated 5L	Manual	chain torsen	Front:2 outboard Rear:1 inboard wilwood calipers	single cylinder engine
PC35EHONDA CBR600F4i 600cc 73.6ps/12000rpm 5.5kgf/8000rpm	Naturally Aspirated 4.5L	Manual	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Beringer calipers	Magnesium Upright
Suzuki GSX-R600 599cc 70ps/9500rpm 5.2kgf/7000rpm	Naturally Aspirated 5L	Manual	Chain Drive F.C.C TRAC	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	Car Design
CBR600RR 600cc 69ps/11,500rpm 5.2kgf/7,500rpm	Naturally Aspirated 7.5L	Manual	Shaft ATV	Front:2 outboard Rear:2 outboard	Hand shifter
PC37E HONDA CBR600RR 604cc 75ps/10000rpm 6.0kgf/8000rpm	Naturally Aspirated 5.5L	Manual	Chain Torque sensing LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	Original steering rack-and-pinion Aluminum hub Aluminum honeycomb crashzone Custom cam shaft
P506SUZUKI Skywave650 596cc 78ps/8000rpm 7.1kgf/6000rpm	Forced induction by turbo-charger 6L	CVT	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Tokico calipers	Electronically controlled CVT Side Mounted Engine Turbo-charger
HONDA CRF450X PE06E 449cc 40ps/9000rpm 4.2kgf/6300rpm	Naturally Aspirated 3.2L	Manual	Chain F.C.C TRAC	Front:2 outboard Brembo calipers Rear:2 outboard SUZUKI calipers	Driver Friendly & Safty

参加チーム【車両スペック】

Participating teams (vehicle specifications)

No	学校名 School Name	Body-Color(s)	Frame	Body-work	Suspension (Front & Rear)	Overall Length Overall Height Wheelbase Front Track Rear Track	Gross Vehicle Mass Fr:Rr Weight Dist. Ground Clearance	Wheels & Tires
12	京都大学 Kyoto University	dark blue & black	Aluminum spaceframe	CFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	3085 mm 1060 mm 1700 mm 1200 mm 1200 mm	230 kg 45:55 50 mm	13inch RAYS 160/55-13 ADVAN Slick
13	立命館大学 Ritsumeikan University	red & blue & black & white	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2700 mm 1200 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	230 kg 43:57 50 mm	13inch Rays 13inch Bias
14	宇都宮大学 Utsunomiya University	green metallic	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front : Double unequal length A-arm Pull rod	2675 mm 1026 mm 1700 mm 1200 mm 1186 mm	225 kg 48:52 50 mm	13inch ENKEI 180/510-13 BRIDGESTONE Bias
15	金沢工業大学 Kanazawa Institute of Technology	red	Steal spaceframe	GFRP	Front&Rear : Aluminum alloy A-arm Pull rod	2700 mm 1110 mm 1660 mm 1200 mm 1200 mm	220 kg 50:50 50 mm	13 inch Aluminium RAYS TE37 5.0J offset+35 Hoosier R25A
16	上智大学 Sophia University	red	Steal spaceframe	CFRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2740 mm 1133 mm 1600 mm 1150 mm 1100 mm	209 kg 42:58 38 mm	5.5 inch wide, 3 pc Mag Rim 20.5x6-13 R25A Hoosier
17	慶應義塾大学 Keio University	gold	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2580 mm 1080 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	215 kg 45:55 40 mm	13inch RAYS VOLK RACING 180/510-13 BRIDGESTONE Bias Slick
18	名古屋工業大学 Nagoya Institute of Technology	blue	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2380 mm 1015 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	155 kg 50:50 35 mm	10inch Douglas ATV Wheel 18.0 ~6.0- 10 R25A Hoosier
19	近畿大学理工学部 Kinki University	black	Steal spaceframe	G-FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2750 mm 1045 mm 1670 mm 1244 mm 1258 mm	220 kg 50:50 45 mm	13inch Rays Volk Racing Hoosier
20	大同工業大学 Daido Institute of Technology	blue metallic & white	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2600 mm 1006 mm 1550 mm 1200 mm 1250 mm	165 kg 40:60 50 mm	10inch YAMAHA ATV Hoosier 18 x 6.0-10
21	東京理科大学 Tokyo University of Science	black & pink	Steal spaceframe	CFRP GFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2850 mm 1025 mm 1720 mm 1120 mm 1120 mm	240 kg 48:52 40 mm	13inch RS Watanabe 160/55 YOKOHAMA Bias
22	大阪大学 Osaka University	lime green	Steal spaceframe	GFRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2600 mm 1075 mm 1680 mm 1200 mm 1180 mm	230 kg 50:50 50 mm	13inch RAYS TE37 20.0x7.5-13 R25A Hoosier

車両スペックは、2006年6月に提出されたものであり、大会車両と異なるケースもあります。

Engine Displacement max. power max. torque	Induction type Fuel tank Volume	Shifter	Final Drive & Differential	Brakes	Unique Features & Notes
YAMAHA YZF-R6 600cc 85ps/13000rpm 5kgf/11000rpm	Naturally Aspirated 5.6L	Manual	Chain Torsen	Front:2 outboard Rear:2 outboard Willwood calipers	
Kawasaki ZX6RR 598cc 60ps/12000rpm 4.0kgf/9000rpm	Naturally Aspirated 7.5L	Manual	Chain Mechanical	Front:2 outboard Rear:1 inboard	
PC35EHONDA CBR600F4i 599cc 65ps/10000rpm 5.2kgf/8000rpm	Naturally Aspirated 6.3L	Electric actuated shifter	D.I.D ER Chane & F.C.C LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	Stabilizer
PC35E HONDA CBR600F4i 599cc 51kW/10,500rpm 52N·m/7,500rpm	Naturally Aspirated 7.5L	Manual	Chain drive	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	Aluminum Suspensions
2003 YAMAHA YZF-R6 5SL1 600cc 62.8kw/12500rpm 56Nm/9500rpm	Naturally Aspirated 2.0L	Manual	Chain Drive Mechanical LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	Dry sump Performance damper
PC35EHONDA CBR600F4i 599cc 47ps/9000rpm 4.0kgf/7000rpm	Naturally Aspirated 6.0L	Manual	Chain Mechanical LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	Pedal adjustment
J321E YAMAHA WR450 470cc 37.7ps/8200rpm 3.6kgf/7000rpm	Naturally Aspirated 4.0L	Manual	Chain Drive FCCTRAC LSD	Front:2 outboard Nissin calipers Rear:2 outboard Willwood calipers	Light Weight Vehicle
EX500 500cc 60ps/9800rpm 4.7kgf/8500rpm	Naturally Aspirated 5.0L	Manual	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Willwood calipers	
5TJ9 YAMAHA WR-450F 450cc 60ps/9000rpm 5.4kgf/6500rpm	Naturally Aspirated 4L	Manual	Chain Helical	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	Keeping simple, Back to Basic
PC37EHONDA CBR600RR 599cc 69ps/11500rpm 5.2kgf/7500rpm	Naturally Aspirated 5.6L	Manual	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	custom oilpan low center of gravity
KVF650-A1 609cc 43.8ps/6500rpm 5.4kgf/5000rpm	Naturally Aspirated 7.0L	CVT	Shaft Torsen LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard	V2 engine and CVT

参加チーム【車両スペック】

Participating teams (vehicle specifications)

No	学校名 School Name	Body-Color(s)	Frame	Body-work	Suspension (Front & Rear)	Overall Length Overall Height Wheelbase Front Track Rear Track	Gross Vehicle Mass Fr:Rr Weight Dist. Ground Clearance	Wheels & Tires
23	早稲田大学 Waseda University	yellow & red	Steal spaceframe	FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2835 mm 1200 mm 1770 mm 1280 mm 1280 mm	275 kg 40:60 70 mm	13inch ADVAN A005 160/55VR13
24	千葉大学 Chiba University	blue & black	Steal spaceframe	aluminum	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2600 mm 1150 mm 1700 mm 1250 mm 1250 mm	250 kg 44:56 45 mm	13inch RAYS TE37 180/510-13 BRIDGESTONE Bias
25	静岡大学 Shizuoka University	black & orange & green	Steal spaceframe	GFRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2280 mm 1100 mm 1610 mm 1200 mm 1200 mm	230 kg 45:55 50 mm	13inch RAYS TE-37 20.0×6.0-1 Hoosier Bias
26	University of Ulsan	no data	no data	no data	no data	no data	no data	no data
27	名城大学 Meijo university	silver	STKM11A steal spaceframe	GFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2610 mm 1050 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	175 kg 53:47 55 mm	10inch RS Watanabe Hoosier
28	茨城大学 Ibaraki University	white	Steal spaceframe	GFRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2565 mm 1190 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	250 kg 50:50 40 mm	13inch RACING SEARVICE Watanabe 180/510-13 BRIDGESTONE Bias
29	東京農工大学 Tokyo University of Agriculture Technology	blue & white	Steal spaceframe	GFRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	3000 mm 1250 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	250 kg 50:50 40 mm	13inch RAYS 180/510-13 BRIDGESTONE Bias
30	明星大学 Meisei University	dark red	aluminum honeycomb monocoque with steal rear frame	G-FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2850 mm 950 mm 1800 mm 1200 mm 1200 mm	210 kg 40:60 50 mm	13inch Racing service Watanabe 21.0×6.0 13 180/510-13 BRIDGESTONE Bias Slick
31	工学院大学 Kogakuin University	blue	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2800 mm 1150 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	240 kg 45:55 60 mm	13inch RAYS 175/60R13 ADVAN A048
32	九州工業大学 Kyushu Institute of Technology	black	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2800 mm 1260 mm 1875 mm 1160 mm 1160 mm	280 kg 45:55 50 mm	13inch RAYS VOLKRACING 175/60R13 ADVAN A048
33	岡山大学 Okayama University	medium seagreen	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	2850 mm 1080 mm 1600 mm 1200 mm 1200 mm	210 kg 45:55 40 mm	13inch Keizer ATV 20.5 x 6.0-13 compound R25A Hoosier

車両スペックは、2006年6月に提出されたものであり、大会車両と異なるケースもあります。

Engine Displacement max. power max. torque	Induction type Fuel tank Volume	Shifter	Final Drive & Differential	Brakes	Unique Features & Notes
'05 HONDA CBR600RR 599cc 64ps/9600rpm 4.0kgf/9000rpm	Naturally aspirated 7.0L	6-spd Sequential Manual	ratio : 3.5	Front:2 outboard Rear:2 outboard brembo calipers	Concept Cowl Design
PC37E HONDA CBR600RR 599cc 70ps/11000rpm 4.8kgf/7000rpm	Naturally aspirated 6.0L	Manual Paddle shift	Chain Mechanical LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	2way injection system
SUZUKI GSX-R600K4 599cc 120ps/13000rpm 7.1kgf/10800rpm (No Restrictor)	Naturally aspirated 7.0L	Electronic Manual	Shaft FCC Track	Front:2 inboard Rear:2 inboard Nissin calipers	Side Engine Layout
no data	no data	no data	no data	no data	no data
WR450F 449cc 21kW/6500rpm 31.5Nm/6000rpm	Naturally aspirated 4.0L	Electric Paddle Shift	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard	
PC37EHONDA CBR600RR 599cc 69ps/11500rpm 5.2kgf/7500rpm	Naturally aspirated 7.14L	Manual	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Brembo calipers	Actuated hand shift Variable pedal unit
PC37EHONDA CBR600RR 599cc 70ps/11500rpm/rpm 5.2kgf/7500rpm	Naturally aspirated 4.5L	Manual	Chain Mechanical LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	twin muffler adjustable steering system
HONDA CBR600RR PC37E 599cc 51[69] /11500 (kW [PS] /rpm) 51[5.2] /7500 (N·m [kg·m] /rpm)	Naturally aspirated 8.0L	Manual	Chain Direct connection	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	aluminum honeycomb monocoque
PC37E HONDA CBR600RR 599cc 69ps/11500rpm 5.2kgf/7500rpm	Naturally aspirated 7.5L	Paddle shift	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard brembo calipers	Simple
PC35EHONDA CBR600F4i 600cc 75ps/11500rpm 5.4kgf/7000rpm	Naturally aspirated 8L	Manual	Chain drive Quaife diff	Front:2 outboard Rear:2 outboard	handbrake
Kawasaki ZX-6RR 599cc 53ps/11000rpm 5.1kgf/8500rpm	Naturally aspirated 6.7L	Manual	Chain LSD	Front:2 outboard Rear:1 inboard Willwood calipers	Hand Shifter

参加チーム【車両スペック】

Participating teams (vehicle specifications)

No	学校名 School Name	Body-Color(s)	Frame	Body-work	Suspension (Front & Rear)	Overall Length Overall Height Wheelbase Front Track Rear Track	Gross Vehicle Mass Fr:Rr Weight Dist. Ground Clearance	Wheels & Tires
34	神戸大学 Kobe University	pearl royal blue	Steal spaceframe	Fiber Reinforced Plastic	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2535 mm 1215 mm 1700 mm 1200 mm 1200mm	250 kg 45:55 88 mm	13inch RS Watanabe Eight Spoke 175/60-13DUNLOP FORMULA-R D98J
35	同志社大学 Doshisha University	black	Steal spaceframe	Fiber- bamboo	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	3020 mm 1050 mm 1700 mm 1285 mm 1350mm	245 kg 42:58 70 mm	13inch ENKEI Aluminium Wheel 180/550R13 195/550R13 DUNLOP
36	信州大学繊維学部 Faculty of Textile Science & Technology, Shinshu University	orange	Steal spaceframe	FRP	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2750 mm 1055 mm 1600 mm 1220 mm 1220mm	250 kg 40:60 50 mm	13inch 5.5J/110/38 YOKOHAMA ADOVAN A005
37	福井工業大学 Fukui University of Technology	blue	Steal spaceframe	FRP	Front : Double wishbone A-arm Pull rod Rear : Double wishbone A-arm Push rod	2500 mm 1100 mm 1600 mm 1300 mm	250 kg 35:65 70 mm	13inch bolk TE37 175/60-13 DUNLOP
38	高知工科大学 Kochi University of Technology	camel yellow	Steal spaceframe	Fiber- glass (FRP)	Front & Rear : Double unequal length A-inboard	2600 mm 1100 mm 1700 mm 1300 mm 1300 mm	190 kg 40:60 70 mm	13inch PRYS VOLK 175/60 R13
39	ホンダテクニカル カレッジ関東 Honda Technical College Kanto	white red black	Steal spaceframe	Fiber-glass & Polly Carbonate	Front & Rear : Double unequal length A-arm ProLink	2590 mm 1075 mm 1620 mm 1250 mm 1250 mm	160 kg 45:55 50 mm	10inch Watanabe Racing 152/457-10(18.0 × 6.0-10 inch) Hoosier Bias
40	近畿大学工学部 Kinki University School of Engineering	electric blue	Steal spaceframe	FRP	Front : Double unequal length A-arm Rear : Direct acting spring and damper	2650 mm 1100 mm 1860 mm 1300 mm 1300 mm	300 kg 40:60 50 mm	13inch 150/530-13 DUNLOP racing slick Tires
41	Korea University of Technology and Education	no data	no data	no data	no data	no data	no data	no data
42	ものづくり大学 Institute of Technologists	white keynote	Steal spaceframe	FRP	Front & Rear : Double A- arm Push rod	2850 mm 1020 mm 1700 mm 1300 mm 1300 mm	250 kg 45:55 50 mm	13inch 6J racing slick
43	静岡理科大学 Shizuoka Institute of Science and Technology	blue	Steal spaceframe	Fiber- glass	Front : Double unequal length A-arm Pull rod Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2270 mm 1150 mm 1650 mm 1330 mm 1330 mm	230 kg 35:65 80 mm	10inch SUZUKI ATV 165/70R10 YOKOHAMA A032R 14inch ADVAN 185/60R14 YOKOHAMA GP
44	首都大学東京 Tokyo Metropolitan University	sky blue	Steal spaceframe	CFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2750 mm 1225 mm 1650 mm 1240 mm 1240 mm	180 kg 50:50 50 mm	13inch WORK 160/55R13 Yokohama ADVAN Radial

車両スペックは、2006年6月に提出されたものであり、大会車両と異なるケースもあります。

Engine Displacement max. power max. torque	Induction type Fuel tank Volume	Shifter	Final Drive & Differential	Brakes	Unique Features & Notes
ZX600-K1 KAWASAKI ZX6RR 599cc 75ps/10000rpm 4.8kgf/7000rpm	Naturally aspirated 6.8L	Manual	Chain Mechanical LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Tokico calipers	
Kawasaki ZX-6RR 599cc 72.1[98.0]/9500 49.0[5.0]/8000	Naturally aspirated 7.0L	Manual	Chain F.C.C LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Tokico calipers	Fiber-bamboo F3 Wheel
PC37EHONDA CBR600RR 600cc 69ps/11500rpm 5.2kgf/7500rpm	Naturally aspirated 8L	Manual	Chain Drive LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	High strength- FRP
HONDA CBR600RR 600cc 75ps/11500rpm 5.4kgf/7000rpm	Naturally aspirated 6L	Manual	Chain Drive LSD	Front:1 inboard Rear:1 inboard Nissin calipers	High strength- FRP
SUZUKI RM-Z450 449cc 57ps/9000rpm 5.5kgm/6500rpm	Naturally aspirated 7.5L	Manual	Chain Helical	Front: outboard Rear: outboard	
HONDA CRF450X 450cc 40ps/8000rpm 3.8kgf/6000rpm	Naturally aspirated 3.5L	Manual	Chain Torsen	Front:2 outboard Nissin calipers Rear:1 inboard Brembo calipers	EFI Engine
EX500-D1 Kawasaki GPZ500S 499cc 60ps/9800rpm 4.7kgf/8500rpm	Naturally aspirated 6.0L	Manual	Chain Daihatu LSD	Front:2 outboarddisk Rear:2 outboarddisk brakes	Equal length IntakeSystem, Pedals & Dteering Wheel Adjustment System
no data	no data	no data	no data	no data	no data
PC37E HONDA CBR600RR 600cc 69ps/11500rpm 5.2kgf/7500rpm	Naturally aspirated 8.0L	Manual	LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard	2piece structure
LT-R450 SUZUKI QuadRacer R450 450cc not found not found	SuperChatged 4L	Manual	ChainTorsen & Differential	Front:2 outboard Rear:2 outboard	One cylinder SuperChatged
PE06E HONDA CRF450X 450cc 55.1ps/9,000rpm 5.12kgf/7,000rpm	Naturally aspirated 3.0L	Manual	Chain & Torsen	Front:2 outboard Rear:2 outboard Nissin calipers	Single Cylinder Engine Light Weight Vehicle

参加チーム【車両スペック】

Participating teams (vehicle specifications)

No	学校名 School Name	Body-Color(s)	Frame	Body-work	Suspension (Front & Rear)	Overall Length Overall Height Wheelbase Front Track Rear Track	Gross Vehicle Mass Fr:Rr Weight Dist. Ground Clearance	Wheels & Tires
45	千葉工業大学 Chiba Institute of Technology	blue	Steal spaceframe	GFRP & aluminium	Front & Rear : Double unequal length A-arm Direct act spring and damper	2926 mm 1080 mm 1560 mm 1095 mm 1095 mm	200 kg 40:60 50 mm	13inch R.S.watanabe 180/510-13 BRIDGESTONE
46	岐阜大学 Gifu university	blue	Steal spaceframe	FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	3000 mm 1230 mm 1800 mm 1200 mm 1200 mm	300 kg 50:50 50 mm	13inch
47	日本大学生産工学部 College of Industrial Technology Nihon University	blue & white & red	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2850 mm 1178 mm 1650 mm 1167 mm 1100 mm	230 kg 45:55 50 mm	13inch 160/55
48	豊橋技術科学大学 TOYOHASHI UNIVERSITY of TECHNOLOGY	white & navy blue	Steal spaceframe	GFRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Pull rod	3000 mm 1160 mm 1550 mm 1150 mm 1200 mm	260 kg 40:60 50 mm	13inch RAYS TE37 20.5 x 7.0 -13 Hoosier R25A
49	大阪市立大学 Osaka City University	white	Steal spaceframe	FRP	Front & Rear : Double equal length A-arm Push rod	2700 mm 1350 mm 1600 mm 1300 mm 1300 mm	240 kg 50:50 50 mm	13inch 180/510-13 BRIDGESTONE Bias,Slick
50	福井大学 University of Fukui	blue & black	Steal spaceframe	FRP	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2680 mm 1100 mm 1650 mm 1200 mm 1200 mm	90 mm	14inch KOUSSEI K-1Racing 185/560 DUNLOP
51	Southern Taiwan University of Technology	turquoise green	Steal spaceframe	Fiber-glass	Front & Rear : Double unequal length A-arm Push rod	2930 mm 1300 mm 1720 mm 1300 mm 1200 mm	300 kg 40:60 50 mm	14inch 155/65-R13

車両スペックは、2006年6月に提出されたものであり、大会車両と異なるケースもあります。

Engine Displacement max. power max. torque	Induction type Fuel tank Volume	Shifter	Final Drive & Differential	Brakes	Unique Features & Notes
5TJ9 YAMAHA WR-450F 449cc 60ps/9000rpm 5.4kgf/6500rpm	Naturally aspirated 4L	Manual	Chain Drive & Herical L.S.D	Front:2 outboard Rear:1 inboard Brembo calipers	Full Cowl Unification parts
SUZUKI GSR600 599cc 72kW/12000rpm 64.7Nm/9600rpm	Naturally aspirated 6.0L	Manual	Chain drive	Front:2 outboard Rear:2 outboard	
PC35EHONDA CBR600F4i 600cc 72ps/12000rpm 5.0kgf/10000rpm	Naturally aspirated 7.0L	Manual	ShaftL.S.D.	Front:2 outboard Rear:1 inboard Nissin calipers	Aluminum Upright
PC37E HONDA CBR600RR 599cc 69ps/11500rpm 5.2kgf/7000rpm	Naturally aspirated 5.0L	Manual	Chain drive LSD	Front:2 outboard Tokico calipers Rear:2 outboard Nissin calipers	
Kawasaki ZX600-N1 599cc 123ps/14000rpm 6.8kgf/12000rpm (from catalog)	Naturally aspirated 5.5L	Manual	Chain Drive	Front:2 outboard Rear:2 outboard Tokico calipers	front air intake system
K508 SUZUKI SV400K5 399cc 53ps/10500rpm 4.2kgf/8000rpm	Naturally aspirated 5.0L	Manual	Chain F.C.C LSD	Front:2 outboard Rear:2 outboard	
HONDA CBR600F4i 599cc 75ps/11500rpm 5.4kgf/7000rpm	Naturally aspirated 7.0L	Manual	Impreza 1.8 Differential	Front:2 outboard Rear:1 inboard Brembo calipers	Variable Intake System

チームメンバーとスポンサー

Team members and sponsors

1 金沢大学

Kanazawa University

■メンバー

(CP) 齋藤悠介, 尾形信幸, 佐藤航, 高橋恭平, 平野栄治, 平松倫直, 前田泰良, 正木健彦, 水尾大志, 山本健夫, 木村徹, 齋藤浩一郎, 島田祐介, 杉浦達矢, 塚野孝俊, 五十嵐佳介, 今村太郎, 岩崎真人, 岡田拓也, 小松祝, 佐田祐介, 林慧太郎, 広瀬利次, 福井龍也, 水上勝博, 森尾真名美, 赤井宏明, 池田洋平, 太田竜司, 北山智史, 城所翔, 渋谷康祐, 西岡高将, 丹羽康人, 細川康二, 宮川忍, 宮本訓兒, 安井潤一郎, 安井風太, 山下拓真, (FA) 榎本啓士



■車の特徴とチームの抱負

KF2006ではユーザーフレンドリーな車輛を目指しました。すでに昨年の優勝は過去のもの。新チーム・新体制のもと2006年度総合優勝に挑みます。

■スポンサー

NTN, タカスサーキット, 高松機械工業, 古河スカイ, 北國新聞, ヤマハ発動機, 愛三工業, RC SUGO, 石原金属化工, 宇野酸素, ヴァンワークス, SP忠男, 江沼チエン, MSCソフトウェア, オーエスジー, 大浦解体, 岡島パイプ製作所, キノクニエンタープライズ, 草島ラジエーター工業所, ケインズパフォーマンスエンジニアリング, 三洋化成, ジェイ・ブロード, スズキ, 鈴永工芸社, ソリッドワークス・ジャパン, 大洋, 茶谷鉄工所, データダイナミクス, ISID, 東罐マテリアル・テクノロジー, 東日製作所, ナオックス, ニシムラジグ, 日信工業, 日平トヤマ, 日本データシステム, NGK, 日本ペイント, ノルトロックジャパン, 阪神ネジ, プレニー技研, プロト, ポッシュ, 三菱電機, 森田工業, ジーエス・ユアサバッテリー, 横浜ゴム, リテルヒューズ, ロックファスナー, 和光ケミカル, インテリジェンス, 浅野川運輸, 金沢工業会, 金沢大学, 金沢大学技術支援センター, 金沢大学工学部, きなり司法・行政書士事務所, SUNSTAR, ニッソーサービス, BIKE ROUTE, 馬場化学工業, 日向製作所, プラスミュー, マツダレンタリース石川, めいてつエムザ時計サロン, MR PROJECT, レイズ

2 神奈川工科大学

Kanagawa Institute of Technology

■メンバー

(CP) 森下倫太郎, 水野谷康博, 江夏康仁, 小関徹弥, 小菅陽平, 佐藤嘉峰, 田阪晃, 古川達也, 角本優, 柏木章, 青木康浩, 荒井亮平, 宮本佑輔, 伊藤学, 依田一輝, 加藤祐也, 桜井諒, (FA) 加藤俊二



■車の特徴とチームの抱負

3分割構造, シャフトドライブを採用。新開発の吸気システム, スタビライザー導入により, 扱いやすいエンジン特性と旋回性能向上を実現。先代車両の長所と新技術が融合した第6世代車両「K-006」で悲願の総合優勝を目指します。

■スポンサー

AVANT-GARDE SPORTS, DRD, GARAGE Horino, NISSAN TECHNICAL CENTER NORTH AMERICA, NTN, NUTEC-JAPAN, OMATA RAICING FACTORY, PCステーション, SPARCO R&D, 石原金属化工, いすゞ自動車, インテグラル, エムエスシーソフトウェア, 大井松田カートランド, かつま鋼管, 神奈川工科大学, 神奈川工科大学 Formula-SAE OB会一同, 川崎重工, 協和興材, 相模湖ピクニックランド, ジーエーティー, 自動車技術会関東支部, ジャコト, 新星機工, ソフトウェアクレイドル, ダイナテック, 日産ディーゼル, 日本精機, 日本軽金属, ビックライダー, 富士重工業, 寛角ギヤ, 本田技術研究所, 本田技術工業, ミツバ, 横浜ゴム, ヨシムラジャパン, レーシングサービスワタナベ

3 国士舘大学

Kokushikan University

■メンバー

(CP) 梁川歩, 金子博貴, 栗原将紘, 勝間田徹, 松本信也, 永田一希, 山元脩平, 柿久保純志, 関口洋平, 八田直之, 高瀬麻衣, 高橋清太, 古御堂尚雅, 小笠原輝, 川村敦, 加藤正祥, 小田博之, 伊東寿仁, 大橋剛, 大比良優介, 高野秀幸, 上田岳史, 加藤諒平, 横澤克則, (FA) 児玉知明



■車の特徴とチームの抱負

今年度はコースで速いマシンをコンセプトに前年度車両から大幅な軽量化と低重心化を図り, 運動性能を高いレベルで融合させました。「勝つ」という気持ちを常に意識して, 今年こそ表彰台の中央に上ります。

■スポンサー

アールケー・エキセル, AVO/MoTeC Japan, エムズ・ファクトリー, エムエスシーソフトウェア, カルソニックカンセイ, GOODRIGE(JAPAN), ケーヒン, シティカート, ソリッドワークス, 竹内化成, 中央発條, デイトナ, 東洋エレメント工業, ティラド, 日発精密工業, 日本キスラー, 日産自動車, ノバ エンジニアリング, 日立製作所, オートモーティブシステムグループ, フル・エント・アジアパシフィック, 本田技研工業, ミノルインターナショナル, 柳下技研, やまと興業, リバーステール, レーシングサービスワタナベ, 和光ケミカル

4 芝浦工業大学

Shibaura Institute of Technology

■メンバー

(CP) 梶原詠介, 上田哲也, 福島知樹, 伊藤憲悟, 谷山隼, 山口純, 五嶋賢太郎, 佛淵裕基, 北原誠吾, 佐藤公彦, 市川哲也, 植村卓範, 今井謙太郎, 林建太郎, 山岡邦彦, 佐藤雄輔, 糸井祐太, 高橋秀生, 橋本陽亮, 吉澤徹, 佐藤健一, (FA) 岡村宏



■車の特徴とチームの抱負

今年の車両はコーナーでの立ち上がりで加速しているマシンを目指し, 「軽量化」「接地性」「低速トルク」の向上を目標に開発しました。

チーム全員で情熱を注いで作り上げたこのマシンで大会の頂点を狙います!!

■スポンサー

アールケー・エキセル, 秋山製作所, アローレーシングサービス, 牛久製作所, ウメオカ, エス・ピー・エアー, NTN, エヌテック, エプシロンジャパン, エムエスシーソフトウェア, エム技研工業, 遠藤木型, 押坂工業, 橘川スポーツランド, 木村バルサ, キャロッセ, 協永産業, ケーアル工業, ケーヒン, 高速電機, 小林機工, サイデン, サイバネットシステム, 三晃製作所, CRCソリューションズ, 芝浦工業大学後援会, ショーワ, 末吉工業, ソフトウェアクレイドル, タイヤ館 T5 岩槻, 太陽ステンレススプリング, 大楨精機, 東京チタニウム, 東京アールアンドデー, ツインリンクもてぎ, 津留崎製作所, 電通国際情報サービス, 特殊技研, 所沢軽合金, 日産ディーゼル工業, 日新, 日新鋼管, 日信工業, 日東精工, 日本軽金属, 日本ケーブルシステム, FACTORY I.T.O., フィアロコーポレーション, プリチストン, プリテック, Pronto配線コム, ホックイェムアイシー, 本田技研工業, 増田伸鉄所, ミツバ, ミナロ, 三菱ふそうトラック・バス, 三村製作所, 柳下技研, 山下ゴム, 山田製作所, 横河工事, ライコランド埼玉店, リョービ, 和光, 和光ケミカル, 大竹スペシャル, クイック羽生, ミツトヨ

5 東京電機大学

Tokyo Denki University

■メンバー

(CP)若井雅人,石山達也,大川健太,伊藤優歩,内山洋平,清水勇佑,永井利治,林雄大,藤田尚之,菊地拓史,平口貴之,吉川大輔,石井宏章,臼木俊一,清水大輔,渡邊芳和,上野航,庄司智和,有馬大貴,(FA)小平和仙



■車の特徴とチームの抱負

昨年エンデュランス1位を獲得したマシンの特徴を踏襲し,エンジンのパワーアップ,マスの集中化,低重心化を徹底しました。今年もエンデュランス1位を獲得し,今年こそは優勝します。

■スポンサー

アクティブ,アールケーエキセル,安藤歯車製作所,エス・ピー・エスアンブラコ,井上ボーリング,内野製作所,エーシーエム,MSC SOFTWARE,NTN,岡島パイプ製作所,オージーケー販売,Aurora Bearing,カツキワークス関東工業,黒澤化工,ケーヒン,興研,コーザイ,コーヨー,興和,サイアン,埼玉車体,埼玉スチロール,国見コマース,クイック羽生,昭和飛行機,新星機工,新東工業,住友電装,精工社製作所,ゼネラル精工,ダイヘン溶接メカトロシステム,寺田,電通国際情報サービス,東京パーツ工業,東日製作所,東邦工機製作所,所沢軽合金,中川ケミカル,中里歯車工業,ナガタ工業,中村鉄工,鍋テック,日信工業,日本カーボン,日本機械工業,日本ケーブル・システム,日本通運,日本特殊陶業,日本パーカライジング,日本ペイント,フェスティカ,プリバード,本田技研工業,ホンダクリオ埼玉,丸一ゴム,ミスミ,ミツバ,ムーンクラフト,メッカ,モリワキエンジニアリング,柳下技研,矢口製作所,横河デジタルコンピュータ,レインボーモータースクール,YKトランスレーション,和光ケミカル

6 日本大学理工学部

College of Science and Technology, Nihon-University

■メンバー

(CP)岡村誠士,村田修一,泉沢幸雄,上原勇,佐藤浩顕,白石零,名波則路,前島茂利,丸井勇介,宮下千広,山崎祥史,上野竜央,大辻啓貴,大友拓也,熊谷聡央,香田俊太郎,坂井貴行,坂井良平,局拓紀,八代涉,山本愛,油井大地,清水直樹,清水勇岐,田中祥喬,増子拓哉,松崎俊宏,丸山淳一,宮田泳司,(FA)堀内伸一郎



■車の特徴とチームの抱負

「三位一体」をコンセプトにDriving, Utility, Designをバランス良く取り入れたマシンが特徴です。とても魅力的なマシンに仕上がりました。マシン性能は十分。優勝目指してがんばります!

■スポンサー

アール産業牧,NTN,エフアールピーゾーン,エフ・シー・シー,ショーワ,ソフトウェアアクレイドル,ソリッドワークス・ジャパン,ツイリンクもてぎ,田畑ラチエーター,devil technica,ノリタケ伊勢電子,プリチストーン,ミノルインターナショナル,ムーンクラフト,葛飾硬質クローム,関西ペイント販売,三協立山アルミ,小山,大同メタル工業,大同工業,太洋,中野科学,日産自動車,日本大学理工学部機械工学科,日本大学理工学部工作技術センター,本田技研工業,和光ケミカル,脇田製作所

7 東海大学

Tokai University

■メンバー

(CP)岡谷彦,三島惇,藤田智也,田所浩史,古川央,森藤健吾,伊藤将太,富安雄一郎,増田裕,定成正造,田中祐介,崔度亨,北川侑,滝口国男,吉池辰也,椎名団,松波太郎,高柳夏樹,久保木圭太,(FA)向井恒三郎



■車の特徴とチームの抱負

日本一速い車輛を目指し,高い運動性能を持つ車輛を作るため「タイヤを使い切る」をコンセプトとして掲げ,車輛の設計・製作を行いました。私たちは,今大会の総合優勝を勝ち取りたいと思います!

■スポンサー

スズキ,SolidWorks,CDAJ,FCC,NTN,RAYS,本田技研工業,及川製作所,トヨタ自動車,日産自動車,アネスト岩田,やまと興業,大同アミスター,Misumi,TOM'S,MYZ,サイバネットシステム,エヌ・エム・ビー販売,Disc Powor,ユタカ技研,Nissan,Elf,GOODRIGE,ウメオカ,コルセ,STM,サイクルサービスおおよま,Performance Electronics,Dynapack,Hoosier,ProShift,Naps

8 横浜国立大学

Yokohama National University

■メンバー

(CP)篤幸太郎,盛合健,岡山菜緒,佐藤友哉,戸坂彰彦,北田健,木下芳人,国実曜弘,阪井啓介,曾根竜介,田中優,友岡諒介,宮原優,村山達也,山田考浩,澤井泰,高梨省吾,荒木洸,荒深和志,菊間裕也,國分乾太,佐々木太雅,鶴田真人,中西真崇,平野直哉,松浦修,道上俊,矢田宏樹,渡辺和人,(FA)佐藤恭一



■車の特徴とチームの抱負

表彰台を目指していた昨年,しかし結果は入賞すら叶わず8位という結果に終わりました。その悔しさを晴らす為に今年こそ表彰台に立ちます。車両コンセプトはcompact F1を引き継ぎ,正常進化を掲げました。

■スポンサー

FCS ファイバークラフトサトウ,MOTUL(テクノイル ジャパンK.K.),日本精工,NTN,S-GRID,TWMC,エムエスシーソフトウェア,オートデスク,ショーワ,ダイナテック,東京アールアンドデー,東日製作所,電通国際情報サービス,富士精密,小原歯車工業,サイバネットシステム,ジュニアモーターパーク クイック羽生,新星機工,スーパーオートバックス横浜みなとみらい,スバルCOR&D,辰巴屋興業,東日エアトルク販売,とくきん,トップラインプロダクト,トルンプ,日信工業,日本発条,本田技研工業,ムソー工業,奈良商会,ワークショップ・イトー,筑波鉄工

9 名古屋大学

Nagoya University

■メンバー

(CP)秋山友彦,平山雅己,井村慎,高谷亮太,塚本将弘,萬智也,小野邦宏,早瀬亮,原弘毅,山脇靖広,横山真資,神谷尚嗣,光安皓,西本雄俊,谷口典隆,宮澤侑次,富田直哉,西田円,吉野裕喜,大堀晋也,西澤郁,野村和孝,松浦友紀,山下亮,榎原優一,小松新始,飯塚伸介,中澤健,大野高明,高橋愛,鈴木創介,中原弘貴,鈴木秋吾,大平雅明,鹿野高瑛,久保田康平,埴原昭信,西條元大,伊藤拓哉,有川尚志,今井俊浅,浅田祐介,(FA)大日方五郎



■車の特徴とチームの抱負

今年は去年の技術を伝承しつつ軽量と剛性が高次元に融合したハンドリングマシンを目指しています。ヨー慣性モーメントの徹底低減,軽量化の徹底,質感・エンジニアリングUPしたマシンで大会に挑みます。

チームメンバーとスポンサー

Team members and sponsors

■スポンサー

江沼チェン製作所, 中央発條, ファーストモールドイング, 日鉄鋼管, 日本軽金属, ダイヘン, 光生アルミニウム, 日信工業, NTN, 加藤ギヤー製作所, 日本トムソン, 日本研紙, テクノイル・ジャパン K.K., BITO R&D, ウメオカ, キノクニエンタープライズ, コーザイ, モリワキエンジニアリング, 東海ゴム工業, 配線コム, 太平洋精工, キャリオ技研, キャリオ商事, SolidWorks - Japan, 興和工業所, 中部日本自動車学校, 幸田サーキットypr桐山, FORMEL LIEVEN, 藤本サービス, F.C.C., 加藤カム技研, ホンダドリーム名古屋中央, サイバネットシステム, エムエスシーソフトウェア, A&F, 昭和飛行機工業, ACTIVE, LA MOTO KOHSAKA, Honda Racing, 丸順, 日比野化学工業

10 東京大学

The University of Tokyo

■メンバー

(CP) 秋元健太郎, 池山喜勇, 岩崎成記, 内富高, 岡本拓之, 小原英明, 恩田祐輔, 海藤広峻, 加治麻理子, 川合潤, 神戸徹也, 菊池篤徳, 工藤元士, 久保雅俊, 久米絢佳, 小松大河, 後藤健太郎, 笹井健史, 澤田武男, 白石卓司, 白井拓磨, 五月女真大, 高尾清貴, 盆子原康晴, 中島亮, 中野豊, 堀内裕明, 松下智紀, 水野朗, 安原清英, 鈴江祥典, 榎本嘉範, 千葉雄樹, (FA) 草加浩平



■車の特徴とチームの抱負

ターボチャージャーを装着し, 究極の2ペダルフォーミュラとして進化を遂げた新マシン。僕らもマシンに負けないように自分にブーストをかけて優勝目指しひた走ります!!

■スポンサー

RK-EXCEL, 旭ファイバーグラス, NTN, エンジニア, キノクニエンタープライズ, 協和工業, クイック羽生, 神戸製鋼所, サイバネットシステム, 三恵工業所, サンスター技研, シーディー・アダプコ・ジャパン, シティカート, 昭和電工, シリコンセンシングシステムズジャパン, GKN-Driveline, スズキ, TAKATA サービス, ダウ化工, 東京大学生産技術研究所試作工場, ナオックス, 日本精線, 日本ビート工業, 日本ビューテック, 日本ユテック, 日置電機, 日立金属, 日立工機, ファーストモールドイング, フジクラ, プリッツ, 丸一鋼管, ミスミ, 水戸工業, メイラ, ヤマテ工業, UGS PLM ソリューションズ, ヨシムラジャパン, ロックファスナー, 和光ケミカル

11 武蔵工業大学

Musashi Institute of Technology

■メンバー

(CP) 田代尊久, 辛島亮之, 倉部陽平, 高橋豊明, 竹内秀亮, 土屋真吾, 春川祐介, 安藤靖浩, 高橋弘治, 増田好晃, 水木祐樹, 近藤巨, 佐々木透, 佐々木光, 佐藤絢香, 中島瑞貴, 橋本紘樹, (FA) 三原雄司



■車の特徴とチームの抱負

私たちの車両M2006は軽量・コンパクトに加えドライバビリティの向上を図りました。この車両は狭く曲がりくねったコースを速く走るために最適なパッケージングです。本年は昨年からの進行中の2年計画仕上げの年です。メンバー一同優勝を目指します。

■スポンサー

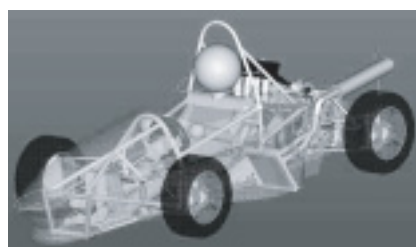
イワモト, 帝国ピストンリング, 恭和, TOKYO R&D, 東日製作所, 本田技研工業, スズキ, ソリッドワークスジャパン, サイバネットシステム, 富士精密, 日産自動車, リトルガレージ, カストロール, 住鋳潤滑剤, 東京都立科学技術高校, レーシングサービスワタナベ, NTN, 日本コピカ, 日本ケーブルシステム, 永田製作所, 寺田製作所, 協和興材, 東急自動車学校, 東急自動車整備専門学校, エフシーシー, パイオラックス, 帝都ゴム, 古河電池, クイック羽生, ラフアンドロードモーターサイクルズ川崎店, CITY KART, アネブル, ガレージ茶畑, 三井生命, トガシエンジニアリング, 小山ガレージ, 松井製作所, プレンプोजジャパン, 武蔵工業大学

12 京都大学

Kyoto University

■メンバー

(CP) 高木隆史, 久瀬善治, 杉原基之, 三日月豊, 高家理気, 濱田曉, 原園泰信, 中村弘毅, 田口紘子, 名和亮輔, 堀内亮, 村田雄一, 山本亮, 似吹大, 今井貴史, 上田智史, 國村大喜, 初鹿野雄也, 弘栄介, 伊藤康輔, 今荘和也, 上田治明, 田力誠也, 埴淵千誉, 正富祐貴, 三尾尚裕, 岩崎秀保, 小田浩平, 鍛冶本昌孝, 釜江典裕, 高橋円, 塚本翔太, 中川渉, 吉田和希, (FA) 横公路泰義



■車の特徴とチームの抱負

巧~機能美を追求する~というコンセプトのもと, 各 부품の機能を考え必要最小限の重量での設計に取り組んでいます。また, さまざまな新しい技術を積極的に取り入れる挑戦もしています。今回で3回目の大会出場であり, 必ず結果を残そうと思っております。

■スポンサー

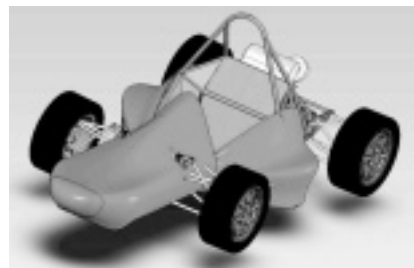
森精機製作所, ヤマハ発動機株式会社, 住友電装株式会社, チヤボックスエポルブ, JTEKT, 神戸製鋼所, NTN, デンソー, サンオートプロジェクト, ヤンマー中央研究所, ウミヒラ F.C.C., ソリッドワークス・ジャパン, コンテック・ラボ, エンタープライズワイ, 速水矯正歯科医院, レイズ, テックサーフ, 横浜ゴム

13 立命館大学

Ritsumeikan University

■メンバー

(CP) 安東太一, 荒巻雄一, 伊丹暢明, 一柳哲也, 井上和樹, 今村悠樹, 宇野修吾, 遠藤祐介, 遠藤廉, 大西潤, 大西智彦, 尾崎一徳, 粕井翔, 山東大輔, 柴山博紀, 武田和隆, 谷口幸佑, 那須健一, 望田修也, 橋場優, 葉山洋平, 大和祥己, (FA) 日下貴之



■車の特徴とチームの抱負

速い車に仕上げました。"結果"にこだわって行きます。

■スポンサー

川崎重工業, 琵琶湖スポーツランド, DAIHATSU, TOYO Tires, Tokyo R&D, intelligence, Solid Works, Nisso Service, 中央発條

14 宇都宮大学

Utsunomiya University

■メンバー

(CP) 坂本雄一, 伊藤淳, 田中達也, 小口直洋, 尾崎智則, 佐々木陽一, 矢吹大智, 荒川敦, 今井太一, 大島剛夫, 大和田哲也, 小高慎一郎, 上地優, 君島充朗, 多田直人, 松橋洋輔, 遠藤充, 大岡周平, 佐藤研斗, 橋本拓実, 服部和史, 村上浩康, 東洋平, 覺幸知輝, 瓦井寛人, (FA) 杉山均



■車の特徴とチームの抱負

今年の車両UF-04は、宇都宮大学の持ち味である「本格的フォーミュラカー」の理論を受け継いだ、完成度の高いマシンです。基本に忠実で、かつ独創性に富んだ車両設計。私たちが考える理想のフォーミュラカーを形にしました。今年の第4回大会では、このマシンで昨年のリベンジを果たします。目指すは表彰台の頂点！

■スポンサー

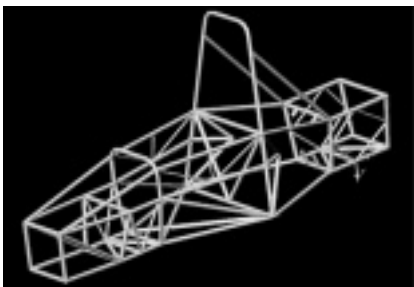
浅野、井頭モーターパーク、インフェック、臼井国際産業、エンケイ、F. C. C、岡モーターズ、オートデスク、小山ガレージ、カルソニックカンセイ、グッドリッチジャパンリミテッド、ケーヒン、サイバネットシステム、ショーワ、スズキ、武蔵野スリーポンド、ソリッドワークスジャパン、大同工業、ツインリンク茂木、TSRもてぎ、東興ラチェーター工業所、栃木県産業技術大学校、日信工業、日本ケーブル・システム、日本トムソン、ニッパツ、花塚製作所、日高精機、フィアロコーポレーション、富士重工、富士精密、プリチストン、プロト、モリメ、本田技研工業、本田技術研究所、三菱ふそう、和光ケミカル、宇都宮大学、宇都宮大学工学部同窓会

15 金沢工業大学

Kanazawa Institute of Technology

■メンバー

(CP)細川祐生、西川彰彦、清水悠介、渡邊直弘、沼田翔太、亀井寛功、嶋田恵助、松川弘幸、阿部慎太郎、内水智也、大西功規、近藤容章、菅居大誠、栃木偉伸、羽馬友理恵、細川徹、(FA)柳浦正勝、(FA)太田誠鉄



■車の特徴とチームの抱負

今年は前年度車両を徹底的に分析し、改良を行った正常進化型マシンを設計しました。昨年の大会ではリタイヤになりましたが、大会後試走を繰り返し、悪かった箇所を見極めました。チームはメンバーの大半が新メンバーとなりましたが、全員が協力し合い、チームとしてのポテンシャルも向上しました。

■スポンサー

本田技研工業、S-GRID、TOLAP

16 上智大学

Sophia University

■メンバー

(CP)泉隼太、谷口聡、塚本健一朗、浅井崇、矢野博之、伊藤大輔、小田康隆、内藤洋輔、佐藤森、藤倉恭平、小室香菜子、高山有美子、前田翔平、新谷ブルーノ坂野、小野泰志、坂本正哉、池澤圭、勝又慎介、廣瀬真希、門倉章太、藤本進、増谷亮、薛昱東、関塚紘子、若林充、山本浩敬、森茂樹、笹島慶一、安彰柱、(FA)鈴木隆



■車の特徴とチームの抱負

今年度チーム目標は王者奪還です。意欲・知識・経験ともに兼ね備えた部員がそろい機は熟したといえます。車両は基本に忠実なレイアウトを考慮し、軽量化・低重心・高品質を実現した世界に通じる車両が完成しました。

■スポンサー

日本SGI、ヤマハ発動機、藤壺技研工業、NTN、ミネベア、日本キスラー、横河電機、東邦テナックス、日信工業、立山アルミニウム、ベストックス、タカタサービス、ミヤコ自動車工業、岡島パイプ製作所、ティラド、アールケーエキセル、コンティネンタルテールベス、東洋ゴム工業、茂原ツインサーキット、プリチストン、大和製衡、日産ディーゼル工業、インテリジェンス、繁富工務店、ニチリン、エムエスシーソフトウェア、日本ケーブルシステム、GAT、東北ラチェーター、東京アールアンドデー

17 慶応義塾大学

Keio University

■メンバー

(CP)鈴木恭平、内田裕之、菅澤敬明、船越一平、及川瀬良美、駒田節子、桑山裕基、永富泰次、深澤健、山口綾、山田泰之、吉村秀人、大隅俊宏、加藤彩乃、高屋圭介、鳥居孟史、水澤文彦、辻夏央、陸井賢人、米川伊織、稲田晴香、佐藤美央、赤嶺宇彦、(FA)飯田訓正



■車の特徴とチームの抱負

今期マシンKF-04は昨年のSpeedy and Easy を継続し、更なる運動性能向上を目標に設計された。「諦めたときが限界だ」をチームスローガンに掲げ、今年こそ上位入賞を狙う！

■スポンサー

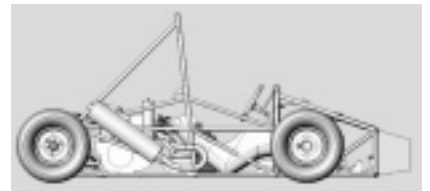
アールケー・エキセル、アライ電機産業、インテリジェンス、エッチ・ケー・エス、NTN、FRP.com、エフ・シー・シー、カストロール、関西ペイント販売、キノクニエンタープライズ、ケーヒン、小林機工、小原歯車工業、ジェイ・ブロード、シティカート、シバックス、ジュニアモーターパーク クイック羽生、ショーワ、スズキ、sparcoR&D横浜、ソリッドワークス・ジャパン、田畑ラチェーター、THK、デンソー東京、東名パワード、トップラインプロダクト、トヨタカラー栃木、日産ディーゼル工業、日信工業、ノーブ、ハイレックスコーポレーション、プリチストン、プロト、本田技研工業、モリワキエンジニアリング、ラフアンドロードモーターサイクルズ、RAYS、慶應義塾大学 理工学部、矢上キャンパス機械科実習室、自工研OB会、ニッソーサービス

18 名古屋工業大学

Nagoya Institute of Technology

■メンバー

(CP)猪股祐介、服部和道、伊藤千洋、石川愛子、土器美里、五藤敦、山田智哉、上田梓、中井仁、杉山翔大、西中健一郎、高橋亮平、高木竜路、新田洋介、穴澤匠、田中修平、丹羽隆彦、西村佳祐、浦田倫央、大河内一輝、高野浩平、森下徹政、吉田秀之、和田健、天野雄介、石川正芳、吉良祥一、榊原啓太、杉本大樹、田中梨絵、知野見啓太、西浦翔平、野村円香、畑中祥吾、山本暁文、(FA)北村憲彦



■車の特徴とチームの抱負

昨年度車両よりさらに軽量化を図り、ポアアップを行いました。初年度から引き継ぐ450ccエンジン採用を軸とした軽量パッケージング車両の集大成とも言える今回の車両で大会優勝を目指します。

■スポンサー

RK エキセル、NTN、青山製作所、出光興産、今村工業、岩倉ラチェーター商会、エフ・シー・シー、岡島パイプ、加藤ギヤー、クラウン自動車学校、国華商会、サクラ工業、シングルハート、ソフトウェア クレイドル、ソリッドワークスジャパン、大進ステンレス工業、大同メタル工業、ダイヘン溶接メカトロシステム、中央発條、デイトナ、巴会、トヨタ車体、名古屋工業会、成田製作所、古河スカイ、ミクニ、美浜サーキット、名東歯車、ヤマハ発動機

チームメンバーとスポンサー

Team members and sponsors

19 近畿大学理工学部

Kinki University

■メンバー

(CP)木津志基, 植田好弘, 筒井隼人, 尾崎泰介, 能瀬篤志, 藤原裕尚, 埴岡俊希, 森内昌平, 森本征樹, 竹原崇皓, 山村貴幸, 三好克典, 吉田正文, 大西淳也, 村田恵梨, 小坂昌史, 小林俊文, 小室克己, 向井康晴, 橋詰恵治, 小城智哉, 吉城雄一, 岸田拓哉, 牧野誠司, 林孝也, 足立悠真, 名生尚史, 砂本雅幸, 中條智裕, 阪本太志, 笈貴一, 馬渡諒子, 林雅之, 大西有輝, 大知純, 西村隼人, 西村紀治, 田村安基, 寺田佳祐, (FA)野崎博路



■車の特徴とチームの抱負

本年度マシンKFR-03では、軽量化により旋回性能の向上に成功。"ENTERTAINMENT"をコンセプトに掲げ、マシンに関わる全ての人々を楽しませる事が出来る車作りを実現しました。支えていただいた方々への感謝の気持ちを胸に、大会へ挑みます。

■スポンサー

川崎重工業, ケーヒン, 名阪スポーツランド, 日ポリ化工, ニッコー溶材工業, ダイハツ工業, レイズ, 大同工業, ダイヘン, 日信工業, 東京アールアンドデー, NTN, サンスター技研, Solid Works Japan, 三宅工業, やまと興業, 今中鋼材, ハードロック工業, 礎, ロックファスナー, Sparco R&D, 孝安産業, 旭電工, ニッソーサービス, コスモスジャパン, 電通国際情報サービス, ウエストレーシングカーズ, 高澤製作所, ササキネジ

20 大同工業大学

Daido Institute of Technology

■メンバー

(CP)水野俊亮, 伊藤慶, 井上祐軌, 板橋佑志, 上村聖, 勝水紀幸, 渡邊真太郎, 中嶋和人, 向創, 横山和彦, 山下徹, 古畑直樹, (FA)伊藤昇一



■車の特徴とチームの抱負

今年度DF-06車両では、軽量化のメリットを最大限にいかし、さらなる運動性能の向上を計ります。少人数体制ではありますが、その分、全員が自己の責任を強く感じ、より良い車両の完成を目指します。狙え！上位入賞！！

■スポンサー

ヤマハ発動機, 大同学園, Slido Works Japan, DENSO, WEST RACING CARS, 創造製作センター, 長谷川兄弟, ナゴヤスチール, クワハラバイクワークス, 名輪商事, 愛知スズキ販売, デイトナ, 日本総合研究所

21 東京理科大学

Tokyo University of Science

■メンバー

(CP)安居鉦平, 石井聡, 保坂陸美, 高田良平, 関修司, 相田一樹, 丹治進, 早船浩一, 佐藤勝則, 小國陽平, 東賢佑, 石井辰典, 岡島岳史, 小野悠, 近藤隆敦, 鈴木康介, 福地孝啓, 浜田篤, 尾木真, 牛山祥吾, 加藤大, 薬師神徳之, 藤崎正太郎, 上田啓, 茂木太郎, 八須真也, 岡和田繁, 瀬川太郎, 鈴木健呉, 小林和真, 亀井佑未子, 北野博子, 天野陽子, 大玉千香子, 小川遼介, 石野浩太郎, 中村晃, 今川聖, 横山達朗, 高木健児, 石黒達也, 竹野元貴, 金子潤也, 高木智宏, 宮川正平, 山田誉, (FA)野口昭治



■車の特徴とチームの抱負

「Good Work on Nexus」の体現。車両、チームのポテンシャルを最大限に引き出し大会に臨みます。そして全競技参加完走、及び総合10位以内をクリアし、真の栄光を掴みとります！

■スポンサー

エムエフマツモト, ケーヒン, スズキ自販東京, 三恵技研工業, TSR, ハイレックスコーポレーション, 本田技研工業, 昭立製作所, 渡辺工業, NTN, 江沼チエニ製作所, エフ・シー・シー, 片瀬製作所, エムエスシーソフトウェア, キーパー, グッドリッジジャパン, 東京R&D, ユタカ技研, RSワタナベ, 日産スプリング, 日信工業, 横浜ゴム, 栄鋼管, コパックス, タカツ製作所, はけ屋, 公進ケミカル, 昭和高分子, ダウ化工, 日新レジン, 日邦産業, 日本グラファイトファイバー, 湯浅レジン工業, スポーツカーズ, クイック羽生, サイバネットシステム, サンウェーブ工業, シティカート, ソリッドワークス・ジャパン, 日本ペイント, ニッポンレンタカーサービス(初石店), 福興商事, 日産自動車

22 大阪大学

Osaka university

■メンバー

(CP)城阪哲哉, 杉山幸久, 慶田達哉, 栗山正典, 上田康文, 篠崎吾郎, 石原尚, 市川亮太郎, 稲葉大樹, 井上豪, 大山裕基, 景山康裕, 小西亮, 佐々木真吾, 高橋良太, 田中慎也, 韓準兌, 山川大輔, 生原尚季, 大田昌宏, 松本佳幸, 奥西晋一, 西谷大祐, 武下肇, (FA)赤松史光



■車の特徴とチームの抱負

私達は第1回大会からV2エンジン+CVTという特色あるパワートレインを採用しています。第4回大会では車両の高剛性化と低重心化、エンジン出力の向上を果たし、トップクラスの走りを目指します。

■スポンサー

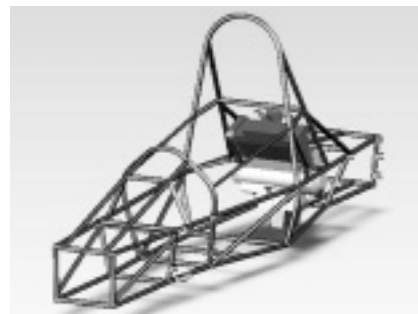
NTN, THK, アールエスタイチ, 大阪大学, 川崎重工業, ガレージミッド, クワハラバイクワークス, 国営アルミ製作所, シグナル, 昭和電工, ソリッドワークスジャパン, ダイハツ工業, ニッソーサービス, 阪大フロンティア研究機構, フルエージェント・アジアパシフィック, 宮脇鋼管, 八尾齒車

23 早稲田大学

Waseda University

■メンバー

(CP)鈴木大樹, 山口達, 大谷航太郎, 来島優, 渡辺大介, 岩田知士, 江本遼平, 大野圭祐, 金子智, 国沢悠来, 小林弘樹, 酒井秀, 坂井拓斗, 佐々木菜美, 藤井元気, 安田彩香, 古谷豪, 佐々木祐治, 加藤弘祐, 田中峻, 岡正哉, 中島希光, 相川浩範, 青木陽介, 足立一郎, 石倉光基, 石崎達也, 稲葉哲史, 今村佳祐, 岩下和彦, 鷗川源也, 大西耕平, 重久直哉, 梶田宜久, 関根慎二, 永里有, 中村耕介, 早川亮甫, 堀川聖道, 松本修治, 三方さら, 嶺日明, 森順一, (FA)大聖泰弘



■車の特徴とチームの抱負

私達は自動車部として、常にドライバーや整備者の側に立った製品開発を行っています。今年のマシンはより扱いやすい挙動と整備性を持ったマシンへ進化しました。このマシンで今年こそ動的種目の上位独占を目指します。

■スポンサー

ウィンマックス, アッソ, 本田技研工業, ソリッドワークス・ジャパン, カミマル, NTN, ウェストレーシングカーズ, RICOLAND, 永田達商店, ナガタニ, レイズ, キャロッセ, 日信工業, 日本サン石油, エムエスシーソフトウェア, キソパワーツール, 国美コマス, sparco R&D, スリーテック, 日産自動車, 日本ケーブル・システム, プラスミュー, ジュニアモーターパーククイック羽生, 早稲田大学工作実験室, 早稲田大学競技スポーツセンター, 早稲田大学自動車部OB会, サイバネットシステム, 興和製作所, アファム・ジャパン, ファーストモールドینگ, ホフマンジャパン, パンザイ, マイスタークラブ, フィアロコーポレーション

24 千葉大学

Chiba University

■メンバー

(CP)土肥学,湯浅康治,千葉健太郎,土肥雅人,海田一哉,多賀谷直人,吉野かおり,泉佳広,大平悠多,高木光太郎,村上学,浅野靖昌,井上麗子,河上まきほ,成松宏一郎,模大地,松崎哲,水越耕太郎,満野亮,中村桂土,福田雄太,柏崎大,古知直人,齋木広太郎,菅井洋,市川龍,小澤周平,佐藤陽,(FA)森吉泰生



■車の特徴とチームの抱負

我々の車づくりのコンセプトは「Calm and Zeal」です。これは高い運動性能と信頼性を合わせ持つ車両づくりを目指したものです。新車両で去年果たせなかった全種目完走を目指して頑張ります！

■スポンサー

本田技研工業,日本精工,ブリヂストン,NTN,日信工業,エフ・シー・シー,サイバネットシステム,レイズ,ハイレックス,KOWA,R&D,千葉大学工学同窓会,関東チーゼル,トゥールズ,葵不動産,バスタ専門店 壁の穴 西千葉店,GOD MOTHER,YKサポートオフィス

25 静岡大学

Shizuoka University

■メンバー

(CP)小宮山和希,岩田秀矢,青木佳史,田島光,市川玄人,栄田祥吾,青山松一郎,浅井亮輔,飯塚啓,上田篤志,大力崇弘,仁木淳之,原木良輔,藤森光明,山口健太郎,穴井一也,井口拓,江藤大希,福原久雄,米田徳如,鶴飼和将,浜崎佑樹,野々村知美,竹内大悟,村上篤,笹澤雅志,望月達也,兵藤了悟,斉藤勇樹,安原常雄,野場圭佑,岡田展大,(FA)福田充宏



■車の特徴とチームの抱負

私達のマシンはサイドエンジンレイアウトという特殊なマシンです。これは重量物を中心に集めヨー慣性モーメントの低減を狙ったものです。高出力エンジンに旋回性能の良いシャーシの融合で総合優勝を目指します。

■スポンサー

スズキ,スズキスポーツ,ソリッドワークス・ジャパン,エヌ・アール・エス,ソフテック,ミノノイサイクル,NTN,林角,モーターパーク・クイック,マルイチ,デイトナ,レイズ,ヘンケルジャパン,戸塚綜業,Kliktronic,和光ケミカル,THK,古河スカイ,アクティブ,アイ・アール・エス,SHOEI,NMB販売,Hoosier

26 University of Ulusan

Meijo University

■メンバー

(CP)小川崇雅,安藤俊,井森龍一,上田裕明,内山竜一,山本雅大,渡邊禎隆,石川哲平,木村要,高橋岳大,手島耕平,中垣宣人,大野雅祥,柴田雅也,柴田康裕,鈴木直哉,高橋聖,新田浩史,平野勝也,待田雄矢,宮崎真弥,森田智恵,安井佑,(FA)早藤英俊



■車の特徴とチームの抱負

小型軽量のWR450Fエンジンを搭載し,軽量なマシン。今年こそエンデュランス完走を目指す。

■スポンサー

ヤマハ発動機,ヨシムラジャパン,NTN,ニチリン,RSワタナベ,三五,やまと興業,中央発條,D.I.D,ダッド,鈴寛,和光ケミカル,WADA・WELDING,IME,レインボースポーツカートコース,井上ボーリング,ソリッドワークス・ジャパン,小山ガレージ,手島印刷,ソフトブレ工業,ミナロ

28 茨城大学

Ibaraki University

■メンバー

(CP)鈴木一宏,太田有紀,吉澤英明,渡辺聡,江川尚史,吉原庸介,萩谷淳史,阿部俊之,平尾貴志,足立秀樹,富樫絵里子,楠原隆之,菅野晃慈,渡辺和彦,黒木雅広,杉浦亮太,森田純一,佐竹佑紀,畑山千賀子,吉田弘道,重松史明,山崎哲央,向田剛也,野々村和隆,手塚勇,バーマンソルタニ,(FA)西野創一郎



■車の特徴とチームの抱負

去年に引き続き電気式のハンドシフトを採用しました。またオイルパンを切断し,重心を下げることに成功しました。チームの抱負は,車検を一回で通過し,全種目参加,そして全種目完走して上位入賞を目指すことです。

■スポンサー

本田技研工業,ソリッドワークス・ジャパン,ブリヂストン,カドワキ,茨城県県営品質協議会,河村製作所,宮元製作所,南海部品 水戸店,東プレ,トヨタカローラ新茨城,NTN,レーシングサービスワタナベ,フジヤマ,ウエストレーシングカーズ,日立製作所オートモティブシステムグループ,北関東ラチエータ,日本ケーブル・システム,日立電線,砂押精工,小峰製作所,日立ゲージ工業所

29 東京農工大学

Tokyo University of Agriculture Technology

■メンバー

(CP)平井駿介,木森将仁,磯谷十蔵,皆川真範,岡本雅己,佐野貴広,宮島直希,成尾直樹,石崎由也,清水達也,古澤亜美,白神聡,佐々木陽平,武田巨,後藤龍一,山崎剛史,東谷佳織,梶原雄三,樋口雅人,(FA)道辻洋平



■車の特徴とチームの抱負

今年の新車両NK02は,「攻めにツナガル」という車両コンセプトのもと「安定」「低重心」「操作性」の3つに重点をおき開発しました。チーム一丸となり,目標である表彰台を目指します。

■スポンサー

本田技研工業,ブリヂストン,住友軽金属工業,THK,モトショップStrada,ソリッドワークス・ジャパン,レイズ,NTN,埼玉車体,日本ケーブル・システム,APP,日信工業,ニチリン,相模湖ピクニックランド,Pronto配線コム,カーツ,ニッソーサービス,学校法人小倉学園,専修学校,東京自動車大学校,日邦産業,ジュニアモーターパーク,クイック羽生,日本ペイント,竹内化成,FCデザイン,ティラド,エッチ・ケー・エス,テックイン,アサデン・ギヤー,モリワキエンジニアリング,ウエストレーシングカーズ,東京農工大学機友会,東京農工大学機械システム工学専攻

チームメンバーとスポンサー

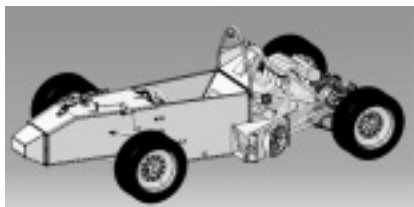
Team members and sponsors

30 明星大学

Meisei University

■メンバー

(CP)林雅洋,高井賢,磯貝和也,漆原俊,大塚理崇,沖田総,小向潤,穴戸直樹,高橋健太郎,中山徹,山崎健太郎,小川琢也,小杉健児,戸塚均,鍋谷智之,西倉健介,服部充岳,福井徹,本多正明,前田琢磨,松村達也,(FA)亀井延明,(FA)江川庸夫



■車の特徴とチームの抱負

車の特徴は、昨年度から取り入れたアルミハニカムモノコックと今年度から新しく取り入れたスプーリングです。大幅な軽量化を行い、全体的に昨年度より向上した車両で、総合10位以内を目指します。

■スポンサー

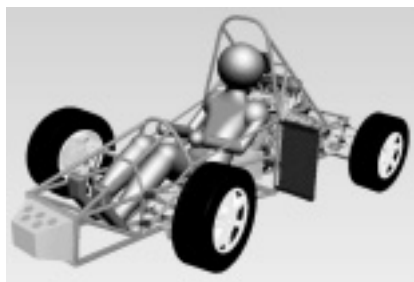
ブリヂストン, GAR TOTAL ADVISER NEXT, DICO, グッドリッジジャパン(リアース), MYZ, RPM, トムススピリット, 石河製作所, カルソニックカンセイ, シーケー販売, 昭和飛行機工業, 真幸電機, ソリッドワークス・ジャパン, 本田技研工業, 丸商, 明星大学 育星会(父母会), レーシングサービス ワタナベ, 三友電子工業, ジュニアモーターパーク クイック羽生

31 工学院大学

Kougakuin University

■メンバー

(CP)國安祐一, 亀屋秀樹, 正野互, 三ツ井浩, 山口雅史, 齋藤耕, 貞光亮秀, 民部俊貴, 齊藤洋輔, 前野武士, 井上仁之, 原田昆寿, (FA)飯田明由



■車の特徴とチームの抱負

2006年度車両は「シンプル・無駄のない・軽量化」という3つのコンセプトで昨年度車両より60kgの軽量化に成功しました。今年は無駄のないピットワークとチームワークのよさで全競技参加・完走を目指し頑張ります。

■スポンサー

RPM, オスコ産業, AUTO WORKS ZERO RACING MND, 京都機械工具, 協和工業, 工学院大学機械工学科同窓会, サイバネットシステム, 栄鋼管, ジュニアモーターパーク クイック羽生, 住鋳潤滑剤, スリオンテック, セントラル硝子, 帝都ゴム, 日産自動車, 本田技研工業, ホンダマイスタークラブ, ミットヨ, ミノルインターナショナル, 矢崎総業, 横浜ゴム, レイズ, ロブテックス, Miya Racing Service

32 九州工業大学

Kyushu Institute of Technology

■メンバー

(CP)達富正英, 石川元一, 大久保潤一, 大久保麻衣, 長谷川幸太, 野村嘉志, 河野浩紀, 福田純一, 前田正弘, 山下耕太郎, 伊藤哲平, 山本謙一, 山本晃大, 仲武聖仁, 池田裕介, 中里慎二, 山下大二郎, 福島 崇紘, 山脇将太, 樫淵将士, 松田竜一, (FA)河部徹



■車の特徴とチームの抱負

「軽く速く」をコンセプトに車両製作に取り組み、運動性能の向上をはかることにより、ジムカーナ等のタイトなコースにおいても走れる車両に仕上げました。すべての競技に参加し、上位進出を目指したいと思います。

■スポンサー

NTN, エムエスシーソフトウェア, 協同シャフト, サイバネットシステム, スチールブランテック, ミクニ

33 岡山大学

Okayama University

■メンバー

(CP)治久丸貴史, 福原健人, 石田貴久, 妹島達憲, 門脇拓也, 坂本大典, 竹本怜史, 北條明, 北山直嗣, 高田陽平, 中澤正典, 首藤智旭, 湯川弘一, 森岡健太郎, 上野雅裕, 青田寿大, 内海雄介, 上田篤史, 藤谷宇, 家守進, 望月洋佑, 大浦佑介, 小島徹也, 鳥越正浩, 峯田陽介, (FA)河原伸幸



■車の特徴とチームの抱負

昨年の車両を見直し30%の軽量化に成功しました。軽量化以外にも多数の改良を行いました。レベルアップした車両で、全種目完走&上位入賞をチーム一丸となり目指します。

■スポンサー

内山工業, 川崎重工業, ソリッドワークス・ジャパン, NTN, JFEスチール株式会社西日本製鉄所, 日進機械, 倉敷化工, 岡山国際サーキット, セロリー, 日本キスラー, 日本レンタカー, F.C.C, 三菱自動車工業水島製作所, 岡山大学工学部

34 神戸大学

Kobe University

■メンバー

(CP)伊藤隆裕, 中塚麻衣, 有野直樹, 中嶋寛, 中村正博, 竹内耕助, 松尾公彦, 藤原康平, 小阪隼一郎, 蓮尾将仁, 古賀進一郎, 井上智晃, 宮崎宏二, 中野寿彦, 北野純希, 箱谷淳, (FA)宋明良



■車の特徴とチームの抱負

大会参加3年目ですが、初心に帰り、完走を最大の目標とします。ドライバーが運転しやすく、自動車に近いコックピットレイアウト、高剛性フレームを採用し、確実に勝利を掴みにいきます。

■スポンサー

川崎重工業, 住友電気工業, 神戸製鋼所, ソリッドワークス・ジャパン, 日本ヒューレッドパッカー, ダイハツ工業, 住友ゴム工業, レーシングサービスワタナベ, NTN, 神戸大学工学部工作センター, ニチリン, 宮脇鋼管, ハードロック工業, 大同工業, サンスター技研, セイコー化工機, 住化バイエルウレタン, 北神戸サーキット, R I C S, ミクニ, MOTO-DOG, タイヤセレクト神戸店, 日本ファスナー工業

35 同志社大学

Doshisha University

■メンバー

(CP)迫田晃司, 渡辺公士, 松本哲明, 岩邊和也, 愛内一浩, 居初有香, 今中明弘, 桐野太輔, 久保田秀典, 田中慎也, 橋本陽子, 羽鳥幸司, 吉原伸太郎, 三好智恵, 三好雄大, 山田真利, 渡辺靖生, 東昂徳, 堀江俊晶, 岩井翔司, 魚谷隆太, 工藤尚敏, 田淵博雅, 富永博史, 内木武虎, 原田祐里, 松村浩明, 山崎泰裕, 安藤正隆, 井上雄大, 川口将彦, 佐伯昭哉, 清水勇貴, 田岡未樹, (FA)藤井透



■車の特徴とチームの抱負

同志社大学2006年度のコンセプトは「Formula Standard」で、フォーミュラのスタイルを追求したものです。また、例年のチームの体制をゼロから見直し、再出発を果たしました。今年は起死回生の年として、大会全種目でポイントを獲得し、大会上位を目指します！

■スポンサー

アールエスタイチ, アクティブ, F・C・C, NTN, ENKEI, 川崎重工業, 鬼頭歯車, 桑原インターナショナル, サンスター技研, ダイハツ工業, 竹の高度利用研究センター, ノイズ研究所, 堀場製作所, 富士通テン, やまと興業

36 信州大学繊維学部

Faculty of Textile Science & Technology, Shinshu University

■メンバー

(CP) 山口浩明, 里見崇徳, 上野山泰斗, 小林史英, 北原康利, 須藤卓也, 中田祐貴, 長瀬昌親, 福井昭博, 泊達也, 平岡正行, 山口竜太, 中野能征, 篠原規将, (FA) 榎本祐嗣



■車の特徴とチームの抱負

全国に唯一の“繊維学部”によるチームです。今年も繊維学部の特色を活かしたマシンで、昨年果せなかった完走、上位入賞を目指します。

■スポンサー

NTN, 江洋ラヂエーター, 小林自動車, サークットあづみ野, 産業技術総合研究所, スズキ, スバルコR&D, ソリッドワークス・ジャパン, 田中自動車鋳金・塗装, 千曲会, 東洋紡績, 日信工業, ピボット, 本田技研工業, ヤマハ発動機, 横浜ゴム, レスカ

37 福井工業大学

Fukui University Of Technology

■メンバー

(CP) 湯本裕貴, 柴田真伸, 荒川裕哉, 黒田裕紀, 茂木佑介, 西野勝博, 齋藤敬, 藤田真史, 櫻井広信, 河原克之, 倉元祐介, 越石力, (FA) 小栗彰

■車の特徴とチームの抱負

出場3回目となる今大会は昨年の車両を引き継ぎながらもシンプルかつ速い車を目指して作成しました。昨年の成績を上回るべくメンバー全員で協力してがんばりたいと思います。

■スポンサー

本田技研工業, サンデー, 金井学園, 個人スポンサー

38 高知工科大学

Kochi University of Technology

■メンバー

(CP) 寺井輝晃, 青木渉, 吉田潤平, 稲瀬悠, 香川真彰, 田邊真一, 中塚洸太, 荻山雅由, 大野晃裕, 今上悠大, 田村和之, 浜田拓次, 伊賀上貴幸, (FA) 山口信次



■車の特徴とチームの抱負

第三回大会での雪辱を晴らすためがんばってきました。今回の車両はトルクと軽さのために450cc単気筒エンジンを使用し、製造しやすいフレーム設計にしコストを抑えました。大会で結果が残せるようがんばりたいと思います。

■スポンサー

SUZUKI, 新井鉄工所, Kochi Classic and Sports car Club, 浜田製作所, SBS高知, Ke~FACTORY, ネットヨタ南国株式会社, モーターランドたがかわ, タイヤプロショップ タイヤガーデン M HOUSE, 株式会社ニッソーサービス, 高知工科大学知能機械システム工学科

39 ホンダテクニカルカレッジ関東

Honda Technical College Kanto

■メンバー

(CP) 斎藤健一, 小嶺幸裕, 石川雅規, 石川正頼, 杉山裕一, 水本慎理, 武田太樹, 高橋雄飛, 小池勇輝, 田村将史, 長谷川祐平, 高塚一宏, 飯塚晃大, 石田尚也, 飯吉達也, 平良翔一, 津金翔, 卜部裕信, 大久保龍, (FA) 杉田正司



■車の特徴とチームの抱負

私達は質実剛健のコンセプトのもと無駄を省くことを徹底しました。更に試走と改良とを繰り返すことでマシンとドライバーの両方が鍛える事が出来ました。最後までスポーツマンシップを大切に元気に活動を行いたいです!!!

■スポンサー

本田技研工業, サイクルファクトリーアライ, SHOEI, モトロマン, SEV, F.C.C, 杉山ホーム, BRD, SAYAMAレーシング, ケーヒン, 東レ, SPARCO, Watanabe Wheel, トクベン, ハマナ自動車, 荒幡製作所, 円陣屋至高, 技研精機, 栗崎歯車製作所, global life, 埼玉車体, 13METAL Works, 三京, 常磐, 大同メタル工業, ティアンドエス, 松下製作所, メイワカーシステム, オカダプロジェクト

40 近畿大学工学部

Kinki University School of Engineering

■メンバー

(CP) 池本憲史, 古後強志, 宮脇賢吾, 成田侑也, 森岡泰裕, 松井崇史, 内橋賢太, 井上達也, 田ノ上知宏, (FA) 清水正則



■車の特徴とチームの抱負

車両コンセプトは「for Family」。家族のみんなが運転でき、楽しむことが出来る車両を開発してきました。この車両を武器に、全競技参加・完走を目指します。

■スポンサー

川崎重工業, ダイハツ工業, セイミ産業, NTN, マツダ, マツダE&T, マツダレンタカー, グリーンパーク弘楽園, ソリッドワークスジャパン, 広島アルミニウム, エイ・エム・エス, 中央工業, 岡田造船

41 Korea University of Technology and Education

42 ものつくり大学

Institute of Technologists

■メンバー

(CP) 小山健雄, 箕浦豪, 堀田知幸, 須賀崇行, 杉浦健太, 清水貴人, 鷲尾景樹, 市川健, 齋藤安樹, 松永真弥, 林孝洋, 中村厚, 松沢正晴, 小林一馬, 吉田香織, 吉田昌幸, 西山正臣, 高橋東寿, 清水政繁, 佐藤匠, 佐成弘, 後藤星来, 酒本大地, (FA) 原薫



■車の特徴とチームの抱負

マシンはフレームが2ピース構造で構成され、エンジンが容易に分割できる。我がチームは今年初参戦のため、走行可能な車両を製作し大会で完走することが目標である。

■スポンサー

本田技研工業, バイクスタッフARIE

チームメンバーとスポンサー

Team members and sponsors

43 静岡理科大学

Shizuoka Institute of Science and Technology

■メンバー

(CP)三井肇, 鈴木宣行, 山下義教, 増田雅弘, 松浦猛, 吉野秀飛, 高瀬みゆき, 吉野拓矢, 三宅孝希, 押久保衣潤, 安達祐介, 瀧美和己, 井上達也, 加藤正隆, 逸見真太郎, 山本司, 四條健, 本多龍矢, 塚本崇, 浅井康裕, 木内達也, 勝野勇希, (FA)土屋高志, (FA)越水重臣



■車の特徴とチームの抱負

本学は、今大会が初参加になりますが、本大学が有する技術を使い、参加大学や審査員の方々の記憶に残るような車体を製作することです。そして、記憶だけでなく、記録も残る大会にしたいと思えます。

■スポンサー

スズキ, 榛葉鉄工所, ロード・ファー・イースト, ソリッドワークス, 静岡理科大学

44 首都大学東京

Tokyo Metropolitan University

■メンバー

(CP)菅家徹, 池澤知徳, 川井渉, 加藤信悟, 本間忠直, 鈴木智晴, 佐藤雄一, 小林直矢, 神津大介, 古村健大, 江連悠介, 神田達成, 吉岡光一, 木城康仁, 清水徹英, 伊藤遼輔, 木村真琴, 池井寿行, 馬場健治, 海野孝祐, 植村隆太郎, 後藤史也, 湯本智也, (FA)太田正廣



■車の特徴とチームの抱負

車両コンセプトは“Push Drivability to the limit”と題し, “運転のしやすい”マシンを目標に設計・製作を行いました。また, 全体的に軽量, 低重心を重点におき, CAEを駆使して強度解析を行なった上で, 車両を製作しました。目標としているCAE賞や新人賞が獲れるようチーム一丸となって取り組んでいます。

■スポンサー

本田技研工業, 日立ピアエンジニアリング, 日立ピアメカニクス, ワーク, くいんと, スピニングガレージ, APP, ソリッドワークス・ジャパン, サイバネットシステム, NTN, FCC, 昭和電工, 日信工業, THK, 富士精密, スーパーオートボックス八王子, 首都大学東京 機械工学コース&工作施設, 協和工業

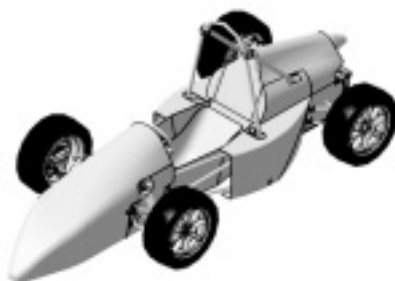


45 千葉工業大学

Chiba Institute of Technology

■メンバー

(CP)岡本真明, 石井優基, 漆畑貴紀, 大貫哲也, 押田雅志, 鈴木直哉, 玉居子雄志, 濱田宏敏, 椛貴裕, 廻谷正史, 鈴木雄一, 大金雄弥, 小宮憲太郎, 清水将雄, 登玉剛士, 堀内一樹, 松本雅育, (FA)金沢憲一



■車の特徴とチームの抱負

私たちは今年初出場のチームで, 初めての経験ばかりで戸惑うこともあります。ルーキー賞の獲得を目標に「軽量」「低コスト」「空気抵抗の低減」をコンセプトにチーム一丸となって活動しています。

■スポンサー

ヤマハ発動機, NTN, VSN, ファクト, ファソテック, 東プレ, 島津製作所, プリチストーン, アーレスティ, レーシングサービスワタナベ, エムエスシーソフトウェア, ソフトウェアクレイドル, スズキ, 三菱製鋼, 京葉バンド, オートベルジャパン, セック, FACTORY GEAR

46 岐阜大学

Gifu University

■メンバー

(CP)原田洋輔, 秋本光, 若佐光裕, 奥田さやか, 栗山嘉文, 近藤充, 鈴木基司, 関泰典, 田村朝子, 中村充良, 藤原和馬, 横井彰敏, (FA)井原禎貴

■車の特徴とチームの抱負

「扱いやすく」そして「レーシングカーらしく」。これらを開発キーワードとし, フォーミュラ入門車として, 乗り手が初心者であってもレーサー感覚を体感し, その成長・上達とともにセッティングを楽しむながらマシンと長く付き合っていけるような, シンプルでタフな, そしてセッティングの幅の広いマシンにしたいと考えています。

■スポンサー

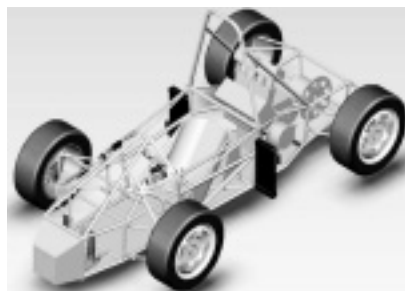
スズキ, ソリッドワークスジャパン, 太平洋工業, オンダ製作所, 天木鉄工, 日本トムソン, ビボット

47 日本大学生産工学部

College of Industrial Technology, Nihon University

■メンバー

(CP)鈴木隆之, 杉本直, 五十嵐敏之, 渡辺慶一, 遠藤裕夢, 大西英雅, 押田直高, 小田康晴, 風間祐希, 国岡直貴, 佐藤拓, 鈴木圭, 手嶋康平, 野中好文, 古澤泰弘, 牧田直希, 吉村達矢, 倉田祐輔, 佐藤宗一郎, 佐藤洋康, 藤枝唯, 松下優穂, (FA)氏家康成



■車の特徴とチームの抱負

アップライトの材質をアルミニウムにすることにより40%近く軽量化をすることができた。昨年度動的審査を一部棄権したため今年は全種目制覇!!&上位入賞!!

■スポンサー

愛三工業, NTN, キャロッセ, KOWA, 埼玉車体, 新星機工, Solid Works, sparuco R&D, 日本ケーブルシステム, 日本大学生産工学部機械工学科, 日立産機システム, 富士重工業, 本田技研工業, 住友電装, 栃木富士産業, コスモスジャパン, 矢野木村

48 豊橋技術科学大学

TOYOHASHI UNIVERSITY of TECHNOLOGY

■メンバー

(CP)里川玄樹,長尾優作,奥田裕也,柳内英知,田村健,山田祐也,近藤圭太,松澤和憲,飯田裕文,島田卓弥,茅野浩之,石森慎弥,田中和宏,清水基志,河野賢太郎,渋谷佑介,中村剛也,永井宏典,熊谷匡明,成富雄一,野口健太,我妻裕樹,手塚康瑛,中條隆史,(FA)柳田秀記



■車の特徴とチームの抱負

車両コンセプトに『静』を掲げ,静音,軽量,コンパクトなマシンを目指し車両を開発してきました。今大会が初参加ですが,妥協せずに取り組み,全競技完走し,エンデュランス一位,及びルーキー賞を狙います。

■スポンサー

本田技研工業,武蔵精密工業,ダッド,FCC,GDS,野口製作所,新東工業,トビー工業,ユニバンス,オーエスジー,大同工業,フタバ産業,レイズ,ソリッドワークス・ジャパン,豊橋技術科学大学未来ビークルリサーチセンター,NTN,三協ラジエーター,ミスタータイヤマン豊橋店,YSP豊橋南,津田工業,M・C PECKERS,豊栄工業,ノルトロック ジャパン

■スポンサー

RSタイチ,育桜会,出石,エービーシー商会,HKS関西サービス,NTN,川崎重工業,ケービン,Co-Allition,コノエ,KONG's,サンスター技研,昭和高分子,スエカゲツール,ソリッドワークス・ジャパン,タイガー製作所,大同工業,ダイハツ工業,ダイヘン,タンガロイ,中道工作所,日東紡績,日本軽金属,日本ビート工業,野口商会,浜田,プリチストン,プロト,ポッシュ

■Team sponsors

買一,實威科技股?有限公司,台湾DMM,達聯企業有限公司,宏易企業社,大山汽車配修廠,

注)

(CP) チームキャプテン

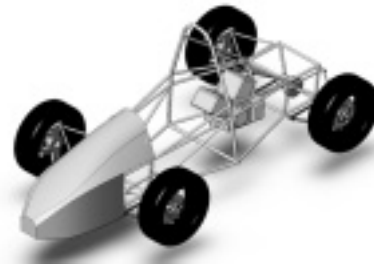
(FA) ファカルティアドバイザー

50 福井大学

University of Fukui

■メンバー

(CP)大村尚史,加藤洋平,大原悠,滝田真也,岡崎崇晃,三木頌一,畔柳将吾,早乙女司,山田啓太,小林知生,佐藤雅紀,高橋亮司,河合勇喜,村田龍一,黒岩祐太,磯谷圭佑,石田浩高,上城戸佑基,(FA)新谷真巧



■車の特徴とチームの抱負

400ccのエンジンをもとに軽いマシンを目指して開発しています。今年の抱負としては来年度につなげられるようデーターを得たり,必要な経験がえら得るようにチーム一丸となつてがんばりたいです。

■スポンサー

アイシン・エイ・ダブリュ工業, あおい商事グループ,NTN,エフシーシー,オートデスク,光生アルミニウム工業,SUZUKI,住友ゴム,ソリッドワークスジャパン,福井県立産業技術専門学院,古河スカイ,ホクシン,吉岡幸

49 大阪市立大学

Osaka City University

■メンバー

(CP)柳田悦豪,高岡誠人,近棟崇,奥村健史,小川潔,伊藤宏昭,上村貴仁,津山達雄,一色翔悟,谷池秀斗,北田真二郎,柴田雅史,(FA)川合忠雄



■車の特徴とチームの抱負

大会初参戦で車作りを知らない本校の作戦は年間2台製作です。しかしそれは時間との戦いでした。そこでコンセプトを生産性の向上とし,1台目を踏み台とすることで他校とのハンデを埋め,上位入賞をねらいます。

51 Southern Taiwan University of Technology

■Team Members

(CP)Chong Jun Jie,Chen Zhao Ying,Chen Ming Zhi,Chen Han Wen,Liu Jia Lang,Ling Qian Cheng,Gao Rong Xing,Zheng Ren Bang,Zhen Ming Hui,Zhong Yi Zhou,(FA)Dr.Wei-Chin Chang

■Feature of car and express team wishes of the Competition

Our car features are using simple design concept and low cost car build to achieve the race car performance. This is our first time take part in JSAE competition, hope can learn some experience from there and score a good result in the competition.

主催・共催・後援・協賛 大会スタッフ

Organisers / Co-Organisers / Sponsors / Co-Sponsors / Competition Staff

主催： 自動車技術会

共催： FISITA

後援： 文部科学省, 経済産業省, 国土交通省, 静岡県, 日本自動車工業会, NHK, 日本テレビ放送網, 東京放送, フジテレビジョン, テレビ朝日, 静岡放送, 静岡朝日テレビ, 朝日新聞社, 読売新聞東京本社, 毎日新聞社, 日本経済新聞社, 日刊工業新聞社, フジサンケイビジネスアイ, 日刊自動車新聞社, 静岡新聞

協賛： 産業技術総合研究所, 交通安全環境研究所, 高等専門学校連合会, 計測自動制御学会, 公立大学協会, 潤滑油協会, 日本設計工学会, 日本機械学会, 日本工学会, 日本工学教育協会, 日本ゴム工業会, 日本材料学会, 日本自動車機械器具工業会, 日本自動車研究所, 日本自動車車体工業会, 日本自動車整備振興会連合会, 日本自動車タイヤ協会, 日本自動車販売協会連合会, 日本自動車部品工業会, 日本自動車連盟, 日本私立大学協会, 日本私立大学連盟, 溶接学会

大会本部

大会委員長 高原正雄(いすゞ中央研究所) 大会副委員長 久村春芳(日産自動車)
審査委員長 橋本健(本田技術研究所) 競技委員長 小林信雄(トヨタ自動車)
本部スタッフ 三枝信雄(日産自動車), 山岸康一(トヨタ自動車), 大星祐司(本田技術研究所), 大野翔(トヨタテクニカルディベロップメント), 永谷秀夫(トヨタ自動車)

大会スタッフ

審査 【車検】

※ 山岸康一(トヨタ自動車), 桜井秀明(トヨタ自動車), 西英之(マツダ), 名倉孝弘(ヤマハ発動機), 本田篤(川崎重工), 加藤誠(トヨタ自動車), 柴山隆(三菱自動車), 荒川英俊(スズキ), 坂井敏之(本田技術研究所), 松谷和幸(マツダ), 林田浩二(日産自動車), 渋谷真(富士重工), 小屋栄太郎(本田技術研究所), 宮本功(日産自動車), 野路明史(三菱ふそうトラック・バス), 小柳貢士(日産自動車), 生田四郎(カルソニックカンセイ), 久本昭彦(小野測器), 甘棠順一(プリチストーン), 青木繁太(プリチストーン), 岡部顕史(日本大学), 木村一徳(ジャトコ), 宮城徳誠(日本大学), 阪口史朗(川崎重工), 橋本健太郎(ダイハツ), 栗田修一(横浜ゴム), 堤隆寿(ダイハツ), 松澤卓(横浜国立大学), 浜口康彦(上智大学), 中村竹士(静岡大学), 藤田英雄(トヨタ自動車), 齊藤正和(トヨタ自動車), 有馬信一(トヨタ自動車), 北束仁(トヨタ自動車), 二宮辰夫(トヨタ自動車), 小野測器, 静岡理科大学

小野昌朗(デザイン審査特別審査員長, 東京R&D)

【静的審査】

※ 大星祐司(本田技術研究所), 沢田護(デンソー), 四谷隆久(日産車体), 河合博文(豊田自動車織機), 小泉伸一(本田技術研究所), 平田公信(日産ディーゼル), 佐藤光宏(住友ゴム), 栗原憲二(日産自動車), 池田博司(東洋ゴム), 福田治男(トヨタ車体), 石川薫(川崎重工), 龍田恭司(いすゞ), 田中秀夫(プリチストーン), 大田佳宏(日野自動車), 実藤和致(横浜ゴム), 東野元(ダイハツ), 羽深清一(デンソー), 有ヶ谷英人(本田技術研究所), 勝又哲史(ジャトコ), 飯野龍雄(富士重工), 塚原紀昭(スズキ), 仁平成俊(日産ディーゼル), 戸田宗敬(トヨタ自動車), 細野健二(本田技術研究所), 崎和喜(トヨタ車体), 石坂建治(いすゞ自動車), 財津義則(三菱自動車), 渡辺和正(デンソー), 山田哲朗(ヤマハ発動機), 鈴木健(日産自動車), 浜島茂充(アイシン精機), 中島裕(日産自動車), 木下有司(日野自動車), 大澤宏(スズキ), 長谷川淳一(トヨタ自動車), 森本清仁(トヨタ自動車), 中村雅人(本田技術研究所), 神野研一(三菱自動車), 高井喜一郎(愛知機械), 堀川敦(富士重工), 橋本隆志(日産自動車), 高木泉(川崎重工), 平田都史彰(ダイハツ), 石田礼(富士重工), 高木久光(本田技術研究所), 木村隆之(マツダ)

【動的審査】

※ 永谷秀夫(トヨタ自動車), 鶴飼憲(トヨタ自動車), 鶴飼龍太(トヨタ自動車), 八木順一(トヨタ自動車), 安達浩教(トヨタ自動車), 都筑康仁(トヨタ自動車), 金森貴史(トヨタ自動車), 伊原哲(トヨタ自動車), 梶川仁(トヨタ自動車), 羽田英樹(トヨタ自動車), 鈴木保(トヨタ自動車), 水落定由(トヨタ自動車), 尾登康彦(トヨタ自動車), 中之裕二(トヨタ自動車), 大北剛史(トヨタ自動車), 新堂雅彦(トヨタ自動車), 田中均(日産自動車), 奥村晃一(日産自動車), 熊谷和哉(日産自動車), 池ヶ谷潔(日産自動車), 湊田隼人(日産自動車), 桑原拓朗(日産自動車), 瀧川慎司(日産自動車), 馬郡和哉(日産自動車), 小倉武司(本田技術研究所), 長井達郎(本田技術研究所), 宮下夏樹(本田技術研究所), 水野陽介(本田技術研究所), 紺谷昌弘(本田技術研究所), 前田大典(スズキ), 速水聡之(ヤマハ発動機), 奈倉健二(三菱自動車), 呉東浩嗣(三菱自動車), 橋本悟(マツダ), 吉本光洋(マツダ), 嶋村誠(富士重工), 島田豊一(ダイハツ), 富永克大(ダイハツ), 浅岡隆行(いすゞ), 長田一郎(ジャトコ), 北澤考弘(ジャトコ), 高橋弥(日野自動車), 濱田明則(日産ディーゼル), 藤井孝彦(東洋ゴム), 上石直哉(東洋ゴム), 木村元昭(日本大学), 小林興次(ヤマハ発動機), 渡辺賢一(ヤマハ発動機), 國井一人(日産車体), 永田大樹(日産車体), 沼田靖志(トヨタ車体), 位田晴良(福井工大), 川崎重工, 川崎重工, 住友ゴム, トヨタテクニカルディベロップメント, 大阪大学, 静岡理科大学

※はイベントキャプテン

大会事務局

三枝信雄(日産自動車), 大野翔(トヨタテクニカルディベロップメント), 大須賀和男(トヨタ自動車), 平本賀一(本田技術研究所), 岡秀樹(スズキ), 村山裕哉(スズキ), 細田洋守(TSC), 中村博(本田技研), 中川貴智(スズキ), 満田辰美(アイシン精機), 橋本靖智(川崎重工), 久米川多賀夫(デンソー), 平野雅久(ヤマハ発動機), 島岡信次(マツダ), 伊藤宏一(都立航空高等専門学校), 狩野芳郎(神奈川工科大学), 宇田和史(神奈川工科大学), 江原忠彦(日産自動車), 若松和夫(富士通テン), 本田康裕(国土館大学), 佐藤貴洋(いすゞ中研), 清水祐子(日本発条), 古屋昂平(日産テクノ), 本橋裕太(日産自動車), 寺山和宏(日産自動車), 野村亮介(日産自動車), 西本幸司(日産自動車), 貝塚卓(日産自動車), 中山紘一(日産自動車), 田中克俊(マツダ), 板垣友成(マツダ), 伊藤由賀里(本田技術研究所), 森本達也(本田技術研究所), 長谷川ちゆな(本田技研工業), 小川晃央(富士重工業), 畔上真典(ジャトコ), 小池功浩(プレス工業), 森田啓一郎(プレス工業), 浅井義幸(アルティア橋本), 根本哲也, 吉崎一匡(ハース), 宮本純(ハース), 浦尾皓二(自動車技術会), 大塚美則(自動車技術会), 福留正彦(自動車技術会), 秋野裕, 大垣邦生, 木村俊則, 小山士郎(自動車技術会), 石原佳代子(自動車技術会), 土肥慎一郎(自動車技術会), 高橋周孝(自動車技術会), 小高徹(自動車技術会)

学生

国土館大学, 慶応大学, 明星大学, 金沢大学, 日本大学, 名古屋大学, 静岡大学, 東海大学, 早稲田大学, 東京大学, 横浜国立大学, 神戸大学, 福井大学, ホンダテクニカルカレッジ関東, 神奈川工科大学, 岐阜大学, 同志社大学, 上智大学, 金沢大学, 東京電機大学, 武蔵大学, 名古屋大学, 九州大学, 高知工科大学, 大阪大学, 宇都宮大学, 名古屋大学, 九州大学, 武蔵大学

委員会組織

Committee Member



全日本 学生フォーミュラ委員会

委員長	高原 正雄	いすゞ中央研究所	委員	島田 豊彦	日本自動車部品工業会
副委員長	久村 春芳	日産自動車		鈴木 俊宏	スズキ
	橋本 健	本田技術研究所		名尾 良泰	日本自動車工業会
委員	内山 真成	日本自動車車体工業会		萩原 文二	日野自動車
	太田 誠一	三菱自動車工業		長谷川 泰二	日立製作所
	大須賀 和男	トヨタ自動車		樋口 世喜夫	自動車技術会
	大西 洋二	川崎重工業		藤森 文雄	アイシン精機
	小川 王幸	デンソー		西村 和洋	マツダ
	加藤 幹夫	本田技術研究所		宮尾 博保	ヤマハ発動機
	後藤 新一	産業技術総合研究所		森下 勝之	ダイハツ工業
	小林 信雄	トヨタ自動車		鷲頭 正一	富士重工業

全日本 学生フォーミュラ委員会戦略チーム

リーダー	久村 春芳	日産自動車	委員	樋口 世喜夫	自動車技術会
委員	小林 信雄	トヨタ自動車		高原 正雄	いすゞ中央研究所
	橋本 健	本田技術研究所		吉田 幸司	日本大学

全日本 学生フォーミュラルール委員会

委員長	伊藤 宏一	航空工業高等専門学校	委員	本田 篤	川崎重工業
副委員長	山岸 康一	トヨタ自動車		吉田 幸司	日本大学

第4回 全日本 学生フォーミュラ実行委員会

委員長	三枝 信雄	日産自動車	委員	橋本 靖智	川崎重工業
副委員長	大野 翔	トヨタテクノサービス		中村 博	本田技研工業
	大星 祐司	本田技術研究所		東野 元	ダイハツ工業
	飯野 龍雄	富士重工業		平野 雅久	ヤマハ発動機
委員	伊藤 宏一	都立航空工業高等専門学校		平本 賀一	本田技術研究所
	岡 秀樹	スズキ		本田 康裕	国土館大学
	狩野 芳郎	神奈川工科大学		満田 辰美	アイシン精機
	久米川 多賀夫	デンソー		山岸 康一	トヨタ自動車
	島岡 信次	マツダ		吉田 幸司	日本大学
	永谷 秀夫	トヨタ自動車	アドバイザー	大須賀 和男	トヨタ自動車

TOYOTA AUTO BODY CO.,LTD.



JOYFUL car, GENTLE life.

うれしいクルマ、やさしい暮らし。 #1 #2

for something precious



We do it for people's safety, comfort and happiness --- your happiness.



Formula SAE®とは

About Formula SAE® Competition Overview

Formula SAE®とは

『ものづくりによる実践的な学生教育プログラム』としてFormula SAE®(SAE International主催)が1981年(4輪自動車生産で日本が米国を追い抜き世界一になった翌年)に米国で初めて開催された。この大会の前身は1976年に開催されたオフロードの8馬力バギーの製作競技で、これが1978年にオンロードのミニインディとして発展し、1981年にシャシーだけでなくエンジンも設計・製作する現在のFormula SAE®に発展したものである。

学生のみで組織されたチームが、約1年間でフォーミュラスタイルのレーシングマシンを製作し、その設計・製作能力、製作したマシンの性能を競う総合競技。第1回大会のエントリーはわずか6校で、競技参加は4校だったが、25回目を迎えた2005年はエントリー枠の140校がメット前に一杯になりエントリーできないチームが出たが、12カ国からチームが参加し、国際的な競技会に発展している。

大会のホスト役は、最初の10年間は全米各地の大学が担い、1991年GM、92年フォード、93年クライスラーが担い、94年以降は米国ビッグ3とSAE Internationalがコンソーシアムを結成し大会のホスト役を担っている。米国企業は、Formula SAE®が自動車関連企業にとって即戦力となる技術者を育成する大会であると認知している。日本からは、2000年に5大学1高専の合同チームが初参戦し、2001年は2チームが、2002年は3チームが、2003年は3チームが、2004年、2005年には4チームが参戦している。

世界各地で開催されるフォーミュラ大会

1997年、Formula SAE®に英国のリーズ大学が北米以外からのチームとして初めて参戦した。その翌年の1998年、英国でFormula Studentが開催され、2000年からオーストラリアでFormula SAE® Australasia、2004年からブラジルでFormula SAE® Brasil、2005年からイタリアでFormula SAE® Italy、今年からドイツでFormula Student Germanyが開催予定となっている。さらにアメリカは今年から年2ヶ所に分かれての開催となり、従来のFormula SAE®の翌月(6月)にFormula SAE® Westを西海岸で開催した。

2006 Formula SAE® 【米国】

アメリカ合衆国	89チーム
カナダ	14チーム
韓国	5チーム
日本	4チーム
ベネズエラ	3チーム
オーストラリア、プエルトリコ、メキシコ	各2チーム
フィンランド、シンガポール、ブラジル、イギリス	各1チーム
合計	125チーム(12カ国)

2005 Formula SAE® Australasia 【豪州】

オーストラリア	21チーム
日本	2チーム
ニュージーランド、インド	各1チーム
合計	25チーム(4カ国)

2005 第3回 全日本 学生フォーミュラ大会 【日本】

日本	40チーム
韓国	1チーム
合計	41チーム(2カ国)

2005 Formula Student 【英国】

イギリス	20チーム
カナダ、アメリカ合衆国	各5チーム
イタリア	4チーム
スウェーデン、オランダ、オーストラリア、ドイツ	各2チーム
フィンランド、インド、スロベニア、スペイン、韓国、タイ、アイルランド	各1チーム
合計	57チーム(17カ国)

()内は参加国数

2000 Formula SAE® に初挑戦

1997年4月、自動車技術会関東支部の学生自動車研究会のなかに「Challenge! Formula SAE®」プロジェクトが発足し、基本設計、空力特性などを検討した。1998年4月、5大学1高専の合同チーム「Challenge! NIPPON」チームが発足し、エンジンは国士館大学、ワイヤハーネスは上智大学、メインフレームは東京都立航空工業高等専門学校、カウルは日本大学、サスペンション、ステアリング、組み立ては神奈川工科大学が担当した。

Formula SAE®は、排気量610cc以下の4サイクルエンジンの使用が義務づけられている。「Challenge! NIPPON」チームは、軽自動車の660ccエンジンをストロークダウンにより610cc以下に改造し、縦置きミッドシップ後輪駆動方式を採用した。排気量608cc、車両質量360kg、FRP製フルカウルの車両で、2000年5月のFormula SAE®にアジア地域から初参戦した。総合成績は、参加104チーム中28位で、初参加の優秀チームに贈られる新人賞を受賞した。

以降、2001年は、国士館大学・上智大学・日本大学の合同チーム、神奈川工科大学の単独チームが参戦した。2000 Formula SAE®プロジェクトでは活動方針、進行管理などについては担当の先生に委ねがちであったが、2001 Formula SAE®ではマネジメント、進行管理、広報活動についても学生自身が自ら行った。参加125チーム中合同チーム91位、神奈川工科大チーム92位。

2002年は3チームが単独校として参戦し、参加125チーム中、国士館大学チーム74位、神奈川工科大学チーム77位、上智大学チーム86位。



2000年合同チームの車両



2001年合同チームの車両



2001年神奈川工科大学チーム

日本大会に向けてのトライアルイベント開催

トライアルイベントは、本大会開催に向けた大会運営リハーサルと位置づけ、2001年9月23、24日にツインリンクもてぎで開催した。参加車両は、2000 Formula SAE®参戦の合同チーム車両J-001、2001 Formula SAE®参戦の合同チーム車両J-002と神奈川工科大学チーム車両K-001の3台。Formula SAE®で行われている車検、静的評価、動的評価を一通り行った。このトライアルイベントにより一通りの大会運営ノウハウを得、2003年の本大会開催に向けて本格的な準備を進めることになった。

第1回 全日本 学生フォーミュラ大会に向けての試走会開催

2003年9月開催の第1回 全日本 学生フォーミュラ大会、および5月開催の2003 Formula SAE®に向けた試走会を3月10、11日、関東支部が主催し、ツインリンクもてぎ北ショートコースにて開催した。参加車両は、宇都宮大学・明星大学合同、神奈川工科大学、国士館大学、東京電機大学、東京大学、慶應大学、武蔵工業大学、金沢工業大学の8チーム。その他、走行会に車両製作が間に合わなかったが第1回大会に参加を予定しているチームや、第2回以降の大会参加を目指し見学参加した大学を含め24大学、総勢400名近い盛大な走行会となった。車検、練習走行、ブレーキテストを行い、これらをパスした5台の車両が加速、スキッドパッド、周回コースを走行した。

この他にも、同年8月2,3日にアイシン精機藤岡テストコース（豊田市藤岡町）にて中部支部と関西支部を主体にした試走会が開催された。



2002年国士館大学チーム



2001年トライアルイベント

第3回 全日本 学生フォーミュラ大会参戦記

金沢大学フォーミュラ研究会
2005年度チームリーダー 中尾 仁

2004年に行われた第2回大会。アメリカから参戦したテキサス大学に大きな差を見せつけられ、総合成績8位という成績で大会を終えた。今でもこの時の悔しさは忘れられない。しかしこの時、海外上位校の車輛を間近で見ることができたのは本当に良い刺激となった。コンセプトに従った設計、細部まで及ぶ軽量化などの工夫。完成度が高く、自分たちに足りないものを発見することができた。

第2回大会の悔しさを晴らすため、目標を優勝とし車輛の設計に取り組んだ。その結果、部品点数の削減などにより昨年比20kgの軽量化に成功した。オイルパン製作によりエンジン搭載位置を下げ、前後ブルロッド方式を採用するなど、各部品を低く配置することにより重心を約20mm下げることができた。その他にフレーム剛性の検討など多くのことに取り組み、半年間の走行試験を行い、万全の状態ですべて2005年9月6日、第3回大会の日を迎えた。



大会直前の合同走行会では、他大学と同等の走りを見ることができたため、いくらか優勝への自信はあった。しかし競技が始まると、常に上位大学の点数の差は均衡しており、各競技の点数が発表されるたびに、上位の順位はめまぐるしく変わっていた。どこが優勝するのかは最後までまったく分からないまま、最後の競技であるエンデュランスを迎えた。そして私たちの出走順となった。

1週目こそタイムは遅いものの順調にタイムを短縮していき、皆の興奮も最高潮に達した時まさかのスピン。先日までの点数を計算した結果、順調にミスなく完走すれば優勝が見えていたため、極度の緊張に達していたのだろう。しかし冷静さは失わず、その後は順調なペースを保ち、11週を走りドライバー交代へ。次のドライバーも安定したペースを保ち、見事完走を果たした。

迎えた表彰式。総合成績6位から2位までの発表が終わったが金沢大学の名前はまだ呼ばれていない。エンデュランスのスピンによる大幅な減点のため、優勝はないと考えていたメンバーの顔には不安と期待が入り混じっていた。「総合優勝金沢大学」。ついに金沢大学の名前が呼ばれた。1年間の努力、先輩方が積み上げてきたものが実った瞬間であった。金沢大学の3回目の挑戦は最高の結果で終了した。

大会までの1年を振り返ると、今でも様々な出来事を思い出す。自分がリーダーとなることが決まった日から何度も不安な思いをしたこと。みんなで毎晩夜遅くまで設計に励んだこと。その中で何度も何度も意見が衝突し双方納得のいくまで議論しあったこと。何度も失敗を繰り返し、試行錯誤しながらの製作に追われる日々。テスト走行会中に何度も起こるトラブル発生。8月の合同走行会では故障もなく準備万端だと思っていた矢先、大会2週間前から予想外の問題が何件も同時に発生し、一時は大会参戦すら諦めかけたこと。多くのことを経験した密度の濃い1年であった。この経験は自分の人生において貴重なものになるだろう。学生フォーミュラという活動は、私を大きく成長させてくれたと思う。この素晴らしい大会が、各大学が切磋琢磨しながら、海外大会にも負けぬぐらいレベルの高い大会に発展していくことを期待している。



第1回、第2回ドキュメント

1st Competition & 2nd Competition Results

第1回大会 (2003.9.10～12)

第1回大会は、翌週から大改修が予定されている富士スピードウェイで開催された。57の企業・団体などにスポンサーになっていただき、当初の予想を上回る国内17チーム(大学16チーム、高専1チーム)が参加し、約1,200名が参加する盛大な大会となった。カーメーカー、部品メーカー、大学教員および学生などのスタッフ160名、概数ではあるがチームメンバー400名、プレス関係者100名、見学者500名で総勢1,160名が参加した。

一日目は、車検、プレゼンテーション、設計審査、コスト審査を行った。二日目は、朝からアクセラレーション、スキッドパッドを行い、その後オートクロスとエンデュランスを行ったが、全体的に競技の進行が遅れ気味となり、エンデュランスは予定を大幅に下回り2台が走り終えたところで日没のために競技を終えた。三日目は、エンデュランス、設計最終審査を行い全競技を無事に終えた。競技終了チームを対象に富士スピードウェイのレーシングコースにてパレードラップを行い、自分たちが製作した車両がレーシングコースを颯爽と走る姿を目の当たりにした学生たちは大きな感動と興奮に浸った。

総合成績は、Formula SAE®大会を経験している上智大学、国士舘大学に続き、Formula SAE®大会を経験していない東京大学がベスト3に入った。



【総合1位】上智大学

2位 国士舘大学, 3位 東京大学, 4位 神奈川工科大学, 5位 宇都宮大学, 6位 金沢大学, 7位 日本大学理工学部, 8位 名城大学, 9位 東京電機大学, 10位 金沢工業大学, 11位 東京都立航空高専, 12位 名古屋工業大学, 13位 武蔵工業大学, 14位 同志社大学, 15位 慶応義塾大学, 16位 日本大学生産工学部, 17位 大阪大学

第2回大会 (2004.8.30～9.2)

第2回大会は、ツインリンクもてぎで開催した。企業・団体など101のスポンサーを得て、エントリー34チーム、大会には海外の3チームを含む28チームが参加した。参加者は約1,530名で、その内訳はスタッフ230名、チームメンバー600名、プレス関係者100名、一般見学者600名にのぼり、第1回大会に比べチーム数・参加者数とも大幅に増え盛大な大会となった。

一日目は、車検とプレゼンテーションを行った。

二日目の未明から午前にかけて台風による強風が会場を襲いテントの半数以上が飛ばされる被害を被った。二日目の競技、ホテル内で行うプレゼンテーションは予定通り進めることができたが、強風がおさまった10時半過ぎに破損したままのテントで、車検、設計審査、コスト審査を開始し、午後から予定よりやや遅れてアクセラレーションとスキッドパッドを開始した。

三日目は、よい天気恵まれ予定通りアクセラレーション、スキッドパッド、オートクロスの競技を終えた。その後、チームの強い要望もあって大会関係者全員の集合写真撮影を行った。

四日目は、午前中雨天でコースのあちこちに大きな水溜りができ、小止みになると水溜りの水をはいてコース整備を行うという状況が繰り返された。降雨の状況を見つつエンデュランス開始のタイミングを見計らっていたが、天候の回復が直ぐには望めない状況が続き、午後一番に予定していたデザインファイナルを午前に変更した。やや天気が回復してきた11時頃に、周回路22周の予定を12周に変更し、エンデュランスを開始し、無事に終えることができた。また、表彰式も途中から土砂降りの雨にみまわれたが、そのまま続行し、何とか大会を終えることができた。

総合成績は、トータルスコアで他チームに大きな差をつけたテキサス大学アーリントン校が優勝し、Formula SAE®大会の経験を積み重ねてきた神奈川工科大学、国士舘大学がベスト3に入った。第2回大会から総合成績最優秀チームに経済産業大臣賞が贈られた。



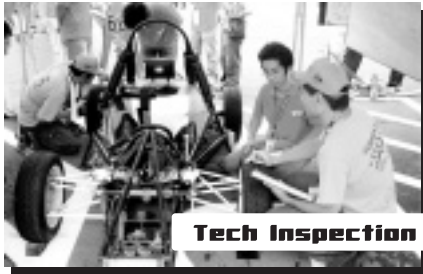
【総合1位】University of Texas at Arlington

2位 神奈川工科大学, 3位 国士舘大学, 4位 芝浦工業大学, 5位 宇都宮大学, 6位 金沢工業大学, 7位 上智大学, 8位 金沢大学, 9位 武蔵工業大学, 10位 日本大学理工学部, 11位 名古屋工業大学, 12位 名古屋大学, 13位 Yeungnam University, 14位 慶應義塾大学, 15位 名城大学, 16位 近畿大学, 17位 東京大学, 18位 静岡大学, 19位 明星大学・工学院大学, 20位 京都大学, 21位 大阪大学, 22位 日本大学生産工学部, 23位 大同工業大学, 24位 同志社大学, 25位 東海大学, 26位 福井工業大学, 27位 Leeds University, 28位 神戸大学

第3回ドキュメント

3rd Competition Results

9/6
[1st day]



① 8:30

② 17:30



9/7
[2nd day]



9/8
[3rd day]



① 7:30



① 12:00

① 15:00

① 18:00

第3回大会 (2005.9.6 - 9.9)

第3回大会は、2005年9月6～9日に富士スピードウェイ・モビリティで開催された。100を超える企業・団体からのスポンサーを得て、エントリー45チーム、当日の参加は海外1チームを含め、41チームとなった。参加者は大会スタッフ260名、チームメンバー860名、プレス関係者、一般見学者を含めると、1,800名を超える規模となった。

1日目は車検と、静的競技。初日のうちに21チームが車検を通過し上々の滑り出しとなった。静的競技では、全3種目のうちコストとプレゼンテーションで神奈川工科大学が1位を占めその強さを見せ付けた格好となった。2日目から動的競技を行う予定だったが、台風14号の影響で会場が暴風雨に襲われ、この日の競技は全て中止となった。各チームは宿舎に引き上げ明日からの動的競技の作戦を練ったり、車検で指摘された項目に修正を加えたりの時を過ごした。

9/9
[4th day]



Endurance



Design Final



Award



3日目から動的競技が開始。車検を通過したチームは、アクセラレーション・スキッドパッド・オートクロスへとチャレンジして行った。オートクロス上位チームは3日目にエンデュランス走行を行なえたが、2日目が中止となった影響で競技時間が短縮されたため、車検通過に時間がかかったチーム等は動的競技のエントリーに制約がかかった。

最終日はエンデュランスと、デザインファイナル。エンデュランスでは、果敢に攻めるチームが多く見られ、有力チームのリタイヤが目立った。

全種目でそつ無く得点を重ねた金沢大学が総合優勝となり、2位神奈川工科大学、3位国士舘大学と続いたが、1、2回大会と比べ、チームのレベルの向上は目を見張るものがあった。

狙い通りの成果を発揮できたチーム、来年に向けて決意を新たにしたチーム、他チームの部品提供や、修理スタッフのサポートでやっと車検が通過できたチーム、そして燃料系にトラブルを抱えたため、勇気を持って出走を断念したチーム・・・。

各チームに悲喜こもごもの出来事があったなか、大会は無事に幕を下ろした。



【1位】金沢大学



【2位】神奈川工科大学



【3位】国士舘大学

4位 芝浦工業大学, 5位 東京電機大学, 6位 日本大学理工学部, 7位 東海大学, 8位 横浜国立大学, 9位 名古屋大学, 10位 東京大学, 11位 武蔵工業大学, 12位 京都大学, 13位 立命館大学, 14位 宇都宮大学, 15位 金沢工業大学, 16位 上智大学, 17位 慶応義塾大学, 18位 名古屋工業大学, 19位 近畿大学理工学部(大阪), 20位 大同工業大学, 21位 東京理科大学, 22位 大阪大学, 23位 早稲田大学, 24位 千葉大学, 25位 静岡大学, 26位 蔚山(ウルサン)大学, 27位 名城大学, 28位 茨城大学, 29位 東京農工大学, 30位 明星大学, 31位 工学院大学, 32位 九州工業大学, 33位 神戸大学, 33位 岡山大学, 35位 同志社大学, 36位 信州大学, 37位 福井工業大学, 38位 高知工科大学, 39位 ホンダインターナショナルテクニカスクール, 40位 近畿大学工学部(広島), 41位 東北支部大学連合

Practice



Acceleration



Skid-pad



Endurance



Autocross



Team's Photo



Competition Site



ECOPA Guide Map

